

林内作業車 BY460S

取扱説明書

フォワードヤマト



⚠ 警告

- ・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3678 5601 000

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943) 75-8055 FAX (0943) 75-8060

部品、修理に関するお問合せは

パーツ・サービスセンター

TEL (0943) 75-3170 (代) FAX (0943) 75-5861

連絡先控え（販売店名）

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。





なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警告

- ・ 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
 - ・ 本書は本製品の運転または保守・点検を行う場合にいつでも参照できるように大切に保管してください。
 - ・ 本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
 - ・ 本製品は公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
 - ・ 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。
-

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警 告 用 語	意 味
 危険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う場合に使用されます。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う可能性のある場合に使用されます。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

事業者の皆様へ

注 意

- ・ 月例点検、年次点検記録は3年間保存してください。
- ・ 労働者を新たに林内作業車を使用する集材作業に就かせる場合には、あらかじめ労働関係者に対して安全教育を実施してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

注 意

- ・ 本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むよう指導してください。
-

保証とアフターサービスについて

保証について

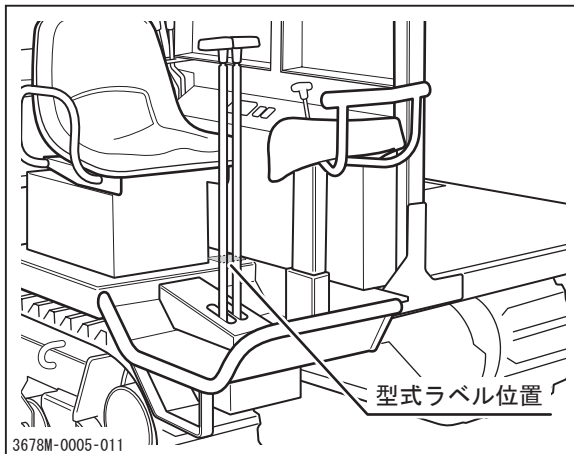
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。

搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」を参照してください。（☞12ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目 次

1. 安全に関する注意事項	1
本製品に添付してある警告ラベルについて	1
安全運転・作業のための心得	3
運転前の心得	3
走行時の心得	5
積載時の心得	6
駐車時の心得	7
整備時の心得	8
2. 各部の名称とはたらき	9
各部の名称とはたらき	9
3. 製品仕様	12
本製品の仕様	12
付属品明細	13
4. 運転と操作	14
運転前の準備	14
走行路の確保	14
始業点検	15
燃料の点検と補給	15
シートの倒しかた	16
シート位置の調節	16

運転のしかた	17
始動のしかた	17
運転のしかた	20
停止のしかた	22
作業のしかた	24
ウインチの操作（ウインチ仕様のみ）	24
木寄せ（ウインチ仕様のみ）	26
荷締め	27
荷降ろし	27
ワイヤーロープの取り扱い	29
消火器	30

5. 保守・お手入れ 31

定期点検表	31
給油・給脂・給水一覧表	36
消耗部品（交換部品）一覧表	37
カバーの開けかた	39
エンジンカバーの開けかた	39
バッテリーカバーの開けかた	39
荷台中央部の開けかた	40
エンジン	41
エンジンオイルの点検・補給・交換	41
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	43
エンジン冷却水の点検・補給・交換	44
エアクリーナの清掃・交換	46
冷却ファンベルトの点検・調整	47
燃料系統	48
燃料系統のエア抜き	48
燃料タンクの水抜き	48
フューエルフィルタカートリッジの交換	49

油圧系統	50
油圧作動油の点検・補給・交換	50
ラインフィルタカートリッジの交換	52
サクションフィルタの交換	52
走行装置	53
クローラ張り調整・取り付け	53
走行モータ潤滑油の交換	55
給脂	56
操向レバーの調整	57
電装品	59
バッテリー液の点検・補給	59
バッテリーの充電	61
ヒューズの点検・交換	63
スローブローヒューズの点検・交換	64
ウインチ（ウインチ仕様のみ）	65
ウインチモータ潤滑油の交換	65
給脂	66
使用後のお手入れ	67
通常使用後のお手入れ	67
寒冷期使用後のお手入れ	67
長期保管のしかた	68

6. 不具合発生時の処置 69

不具合診断表	69
--------	----

7. 本製品の移送 72

トラックへの積み降ろし要領	72
---------------	----

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

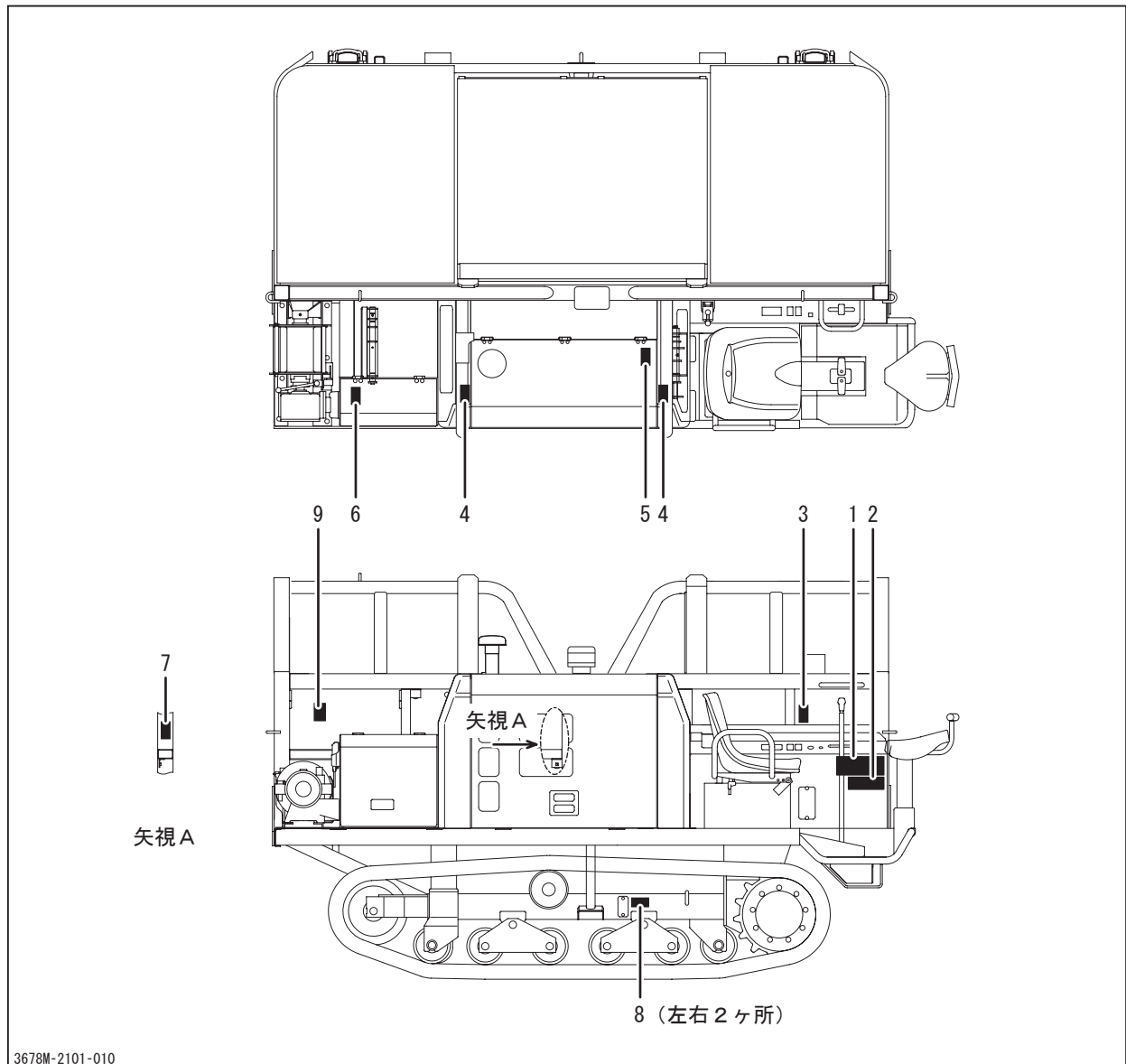
※本書とあわせて必ずお読みください。

本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。

この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



1

⚠ 危険	⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 警告
積荷が片寄ると、車体が転倒し、死傷するおそれがありますので、必ず積荷は均等に載せ、ロープ等で固定してください。	傾斜地の走行では、急停止やわずかな段差でも車体の転倒が起こり、死傷するおそれがありますので慎重に走行してください。	安全カバーを取り外した状態で使用しないでください。回転物に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。	取扱説明書を読んで、理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

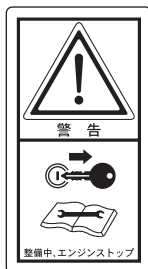
36785014000

2

⚠ 警告	⚠ 注意	⚠ 注意
降坂時は副変速を低速にし、ゆっくりと走行してください。エンジンがオーバーランを起こすおそれがあります。	外気温が0℃以下の時は、5分以上暖気運転を行ってください。エンジンや油圧機器の寿命を短くするおそれがあります。	駐車時は必ず駐車ブレーキをかけてください。

36785015000

3



51165027000

4



52295019000

5



52295021000

6



52295022000

7



52295025000

8



51165041000

9 (ウインチ仕様のみ)

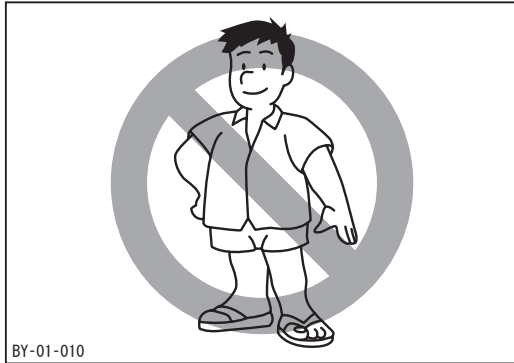


36635105000

安全運転・作業のための心得

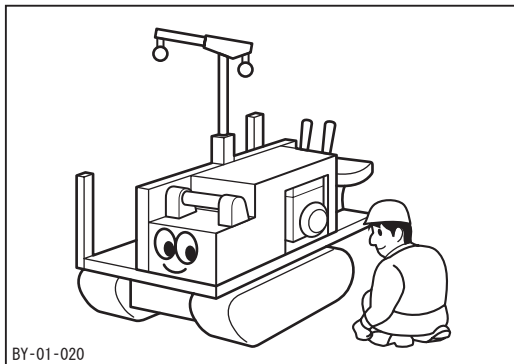
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得



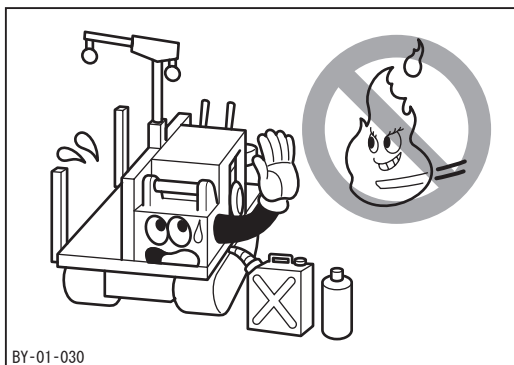
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。また、ヘルメット、安全靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



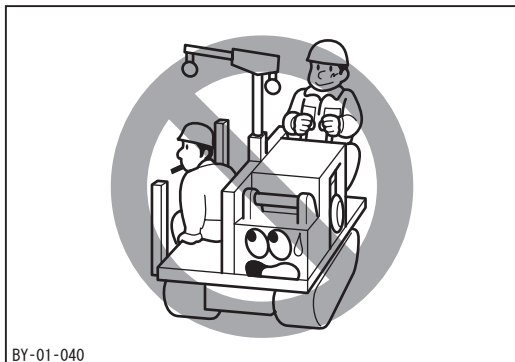
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。



火気厳禁

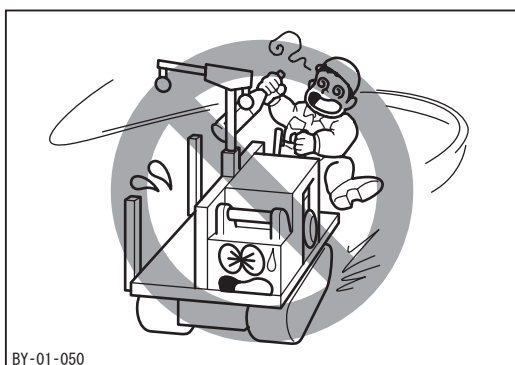
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。



BY-01-040

同乗禁止

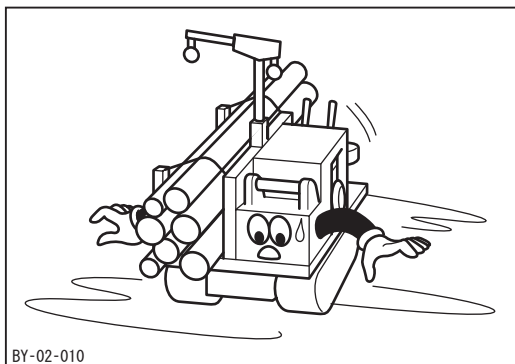
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。



BY-01-050

無謀運転禁止

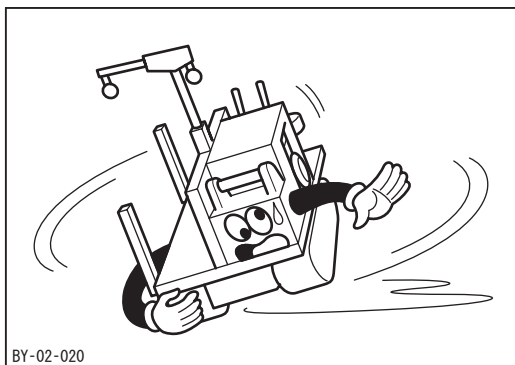
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得

BY-02-010

安全速度遵守

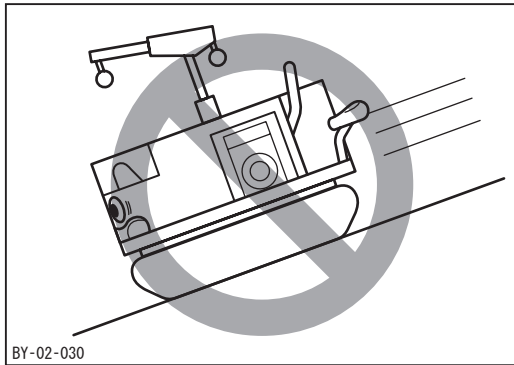
発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。



BY-02-020

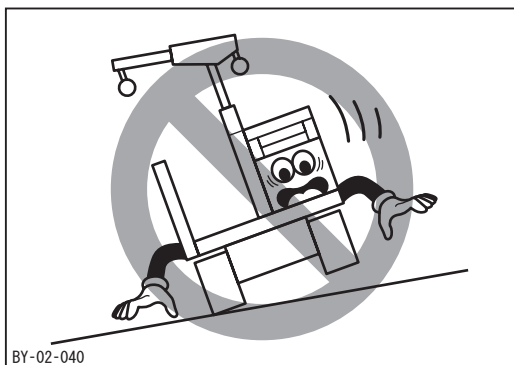
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



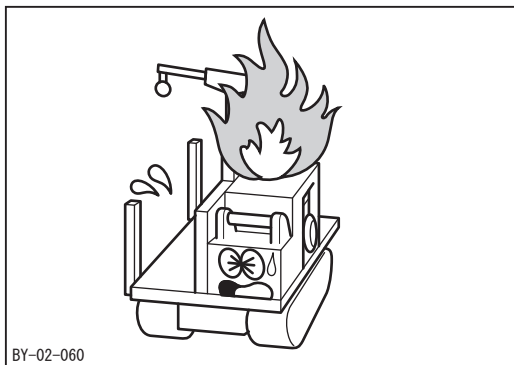
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、副変速を低速位置に入れ、下るときには低速で走行してください。



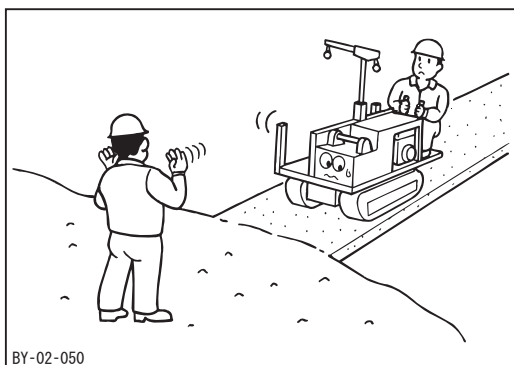
斜面の横断禁止

斜面はまっすぐ上り下りし、斜面を横断しないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。また、斜面での旋回は乗車姿勢が不安定になり危険ですので、行わないでください。



作業中の清掃励行

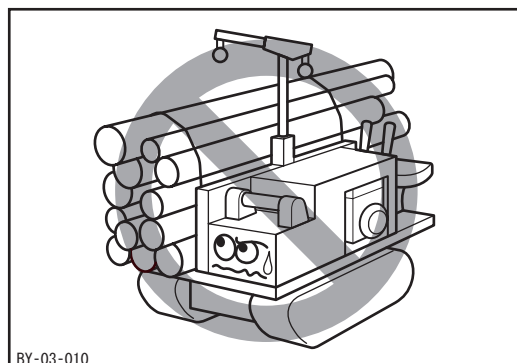
作業中は、使用2時間毎に荷台下部を清掃してください。木材のくず等が堆積したまま使用を続けると、エンジン、マフラーの熱により発火する危険性があります。



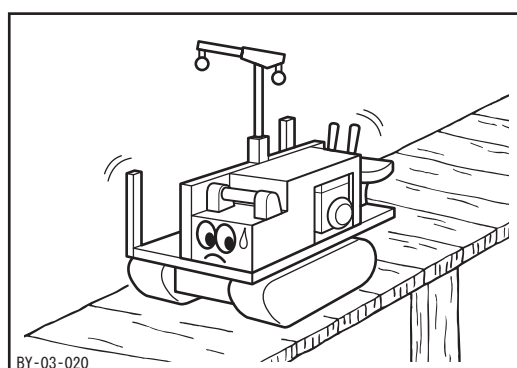
危険な場所では誘導者の指示に従う

見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

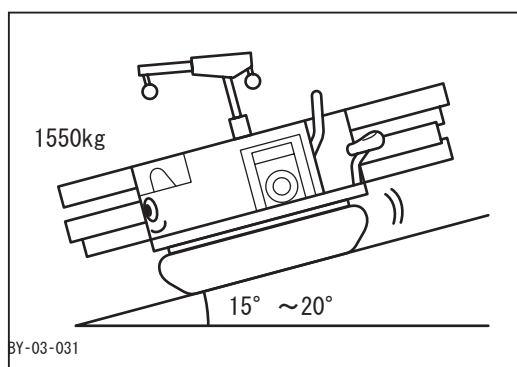
積載時の心得

**過積載禁止**

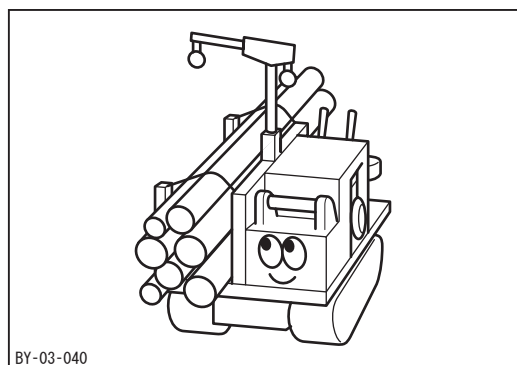
本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。

**制限重量に注意**

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

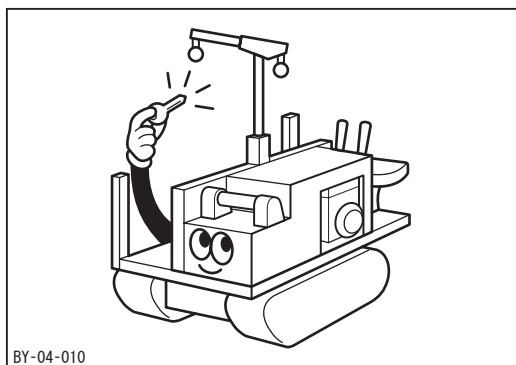
**傾斜地での積載量に注意**

15° ~ 20° の傾斜地では、積載量を1550kg以下にして走行してください。20° ~ 25° の傾斜地では、空車で走行してください。25° を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

**積荷は正しく載せる**

積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ワイヤで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

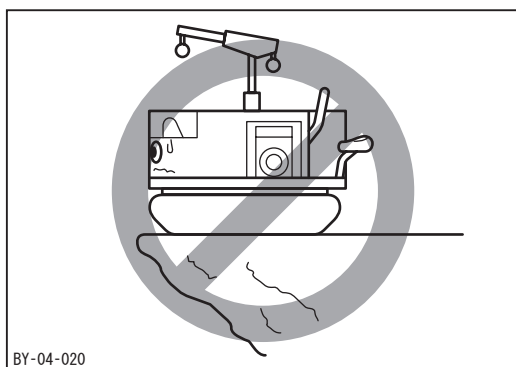
駐車時の心得



BY-04-010

駐車時の安全確認

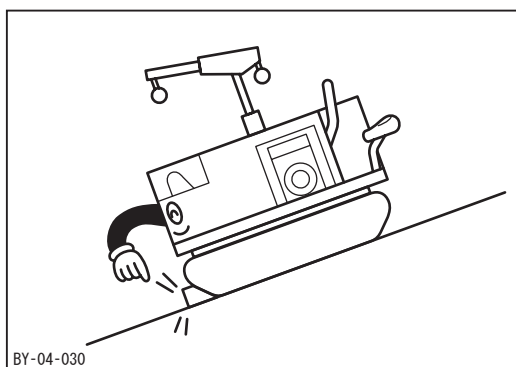
駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



BY-04-020

危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

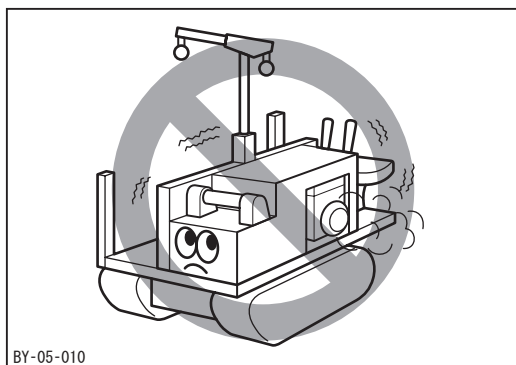


BY-04-030

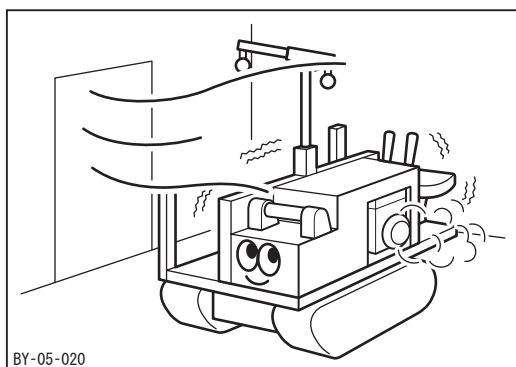
傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

整備時の心得

**エンジン回転中の整備禁止**

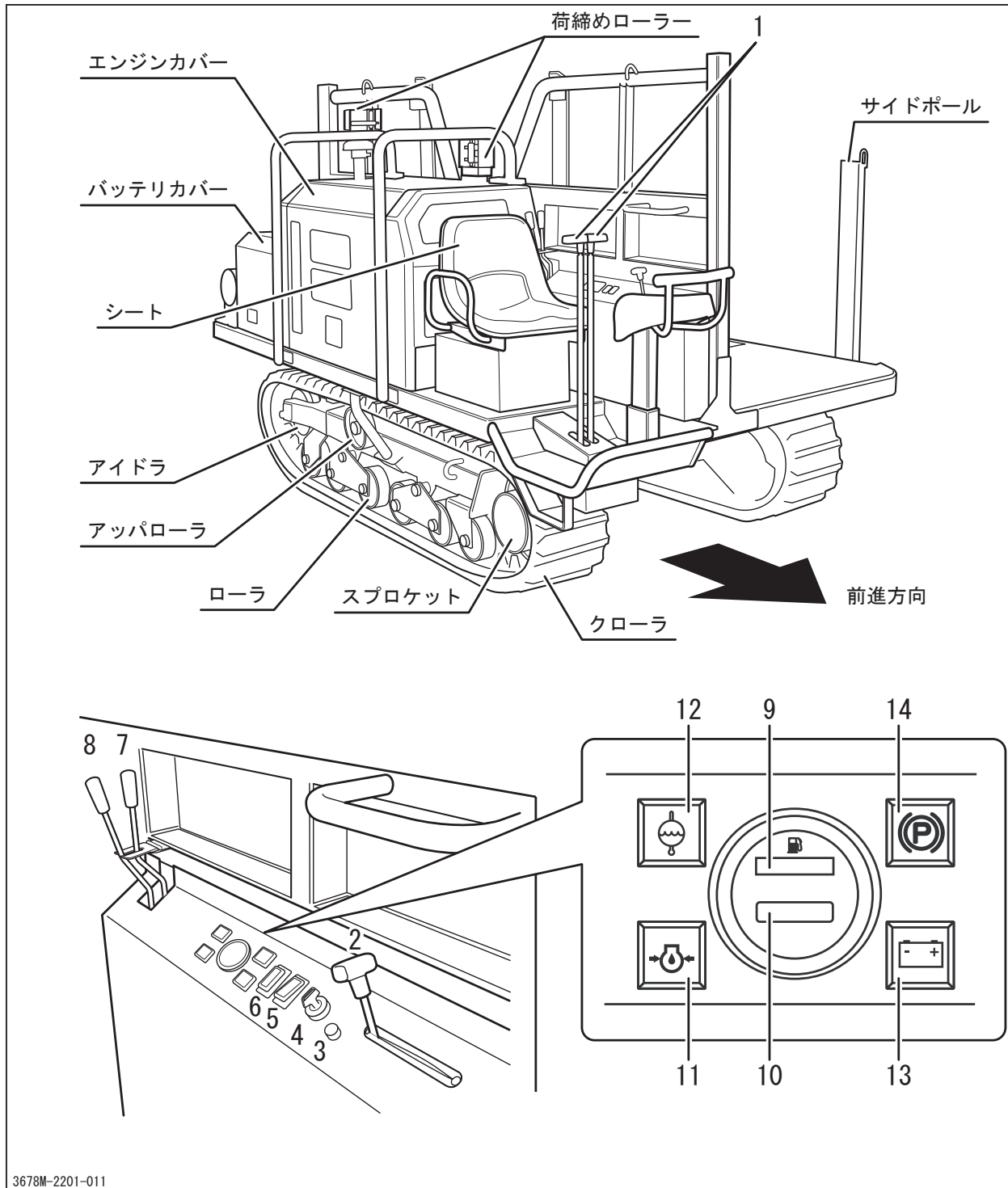
エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

**換気に注意**

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

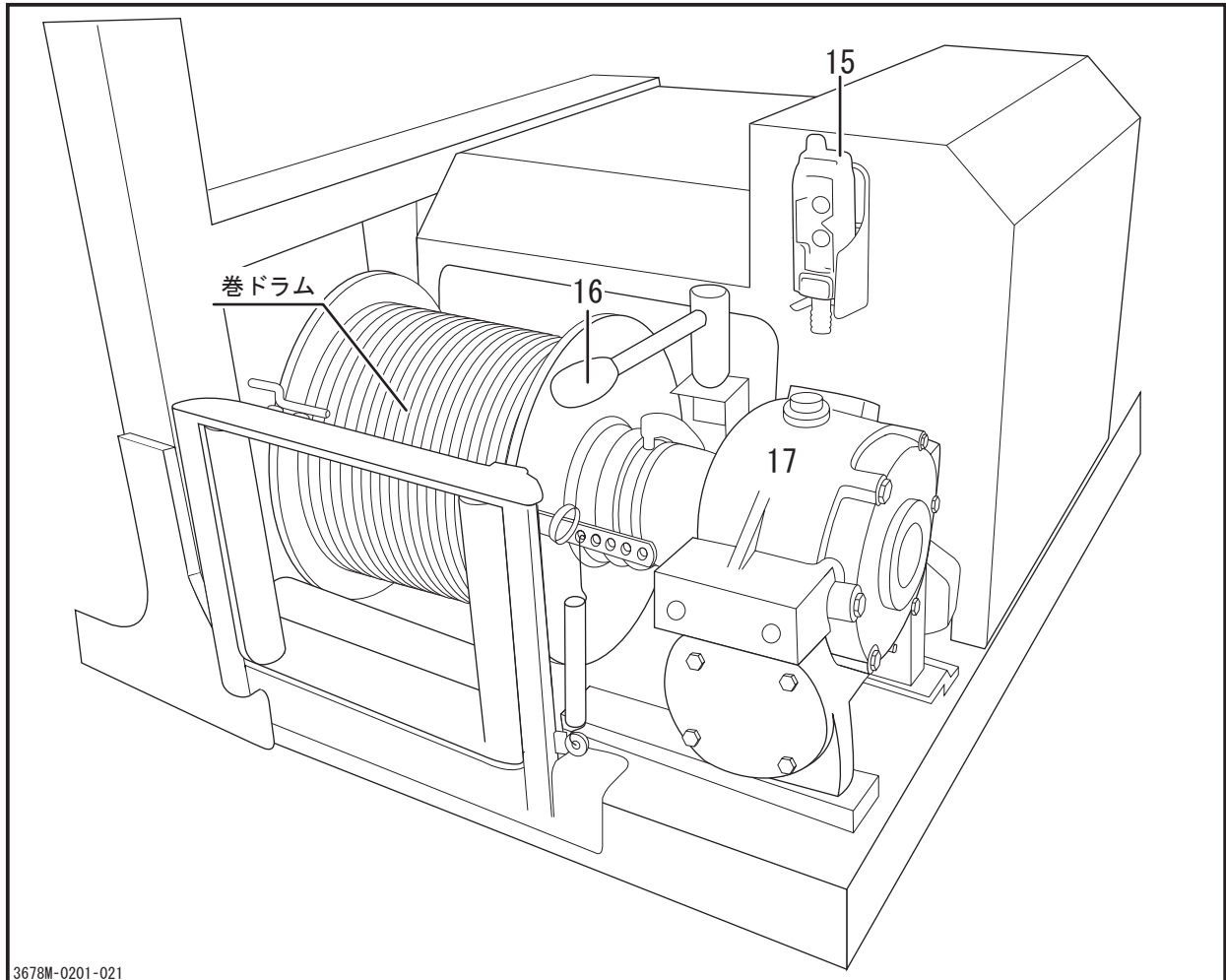
各部の名称とはたらき

運転操作部



- 1 操向レバー ……………車両を走行または旋回するときに使用します。操行レバーが中立位置になると、自動的に駐車ブレーキがかかるようになっています。
- 2 アクセルレバー ……………エンジン回転数の増減を行います。
- 3 ホーンスイッチ ……………スイッチを押すとホーンが鳴ります。
- 4 メインスイッチ ……………エンジンを始動および停止するときに使用します。
- 5 駐車ブレーキスイッチ ……………車両を駐車するときに使用します。
- 6 副変速スイッチ ……………車両の走行速度を切り替えるときに使用します。
- 7 ダンプレバー ……………荷台中央部を上昇および下降するときに使用します。
- 8 サイドポールレバー ……………サイドポールを解除および固定するときに使用します。
- 9 燃料計 ……………燃料の残量を示します。
- 10 アワメータ ……………機械稼働時間の累計を0.1時間単位で示します。
- 11 エンジン油圧ランプ ……………エンジンオイルの圧力が正常かどうかを示します。エンジン回転中に消灯していれば正常です。
- 12 冷却水温ランプ ……………冷却水の温度が正常かどうかを示します。エンジン回転中に消灯していれば正常です。
- 13 チャージランプ ……………バッテリーの充電状態が正常かどうかを示します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。(P)
- 14 駐車ブレーキランプ ……………駐車ブレーキスイッチが「 (駐車) 」の位置に入っているときに点灯します。

ウインチ操作部（ウインチ仕様のみ）



15 ウインチ操作リモコン ……巻ドラムを正転および逆転するときに使用します。

16 ウインチクラッチレバー ……ウインチモータから巻ドラムへの動力を断続させます。

17 ウインチモータ ……巻ドラムを油圧によって回転させます。

本製品の仕様

 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			BY460S		
			ウインチなし	ウインチ付	
機 械 質 量		kg	2300	2450	
最 大 作 業 能 力		kN(kg)	30.4(3100)		
機 械 寸 法	全 長		mm	3180	
	全 幅		mm	1945	
	全 高		mm	1930	
	クローラ接地長		mm	1400	
	クローラ中心距離		mm	1300	
	最低地上高		mm	295	
	平均接地圧		kg/cm ²	0.26	0.28
	荷 台	長 さ	mm	3000	
幅		mm	1050		
エ ン ジ ン	名 称		クボタ V2203		
	形 式		水冷4サイクル4気筒ディーゼル		
	シリンダ(内径×行程)		mm	87×92.4	
	総 排 気 量		cm ³ (cc)	2197(2197)	
	定 格 出 力		kW(PS)/rpm	33.8(46.0)/2800	
	最 大 ト ル ク		N·m(kgm)/rpm	135.0(13.8)/1600~1800	
	始 動 方 式		セルフスタータ式		
	使 用 燃 料		軽油		
	燃 料 消 費 率		g/kW·h(g/PS·h)	258(190)	
	燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	45	
	潤 滑 油 容 量		ℓ	9.7	
	冷 却 水 量		ℓ	8.2	
	電 装	バ ッ テ リ 形 式		100E41R	
バ ッ テ リ 容 量		V/AH	12/80		

名 称 ・ 型 式				BY460S	
				ウインチなし	ウインチ付
走行性能	走行速度	高 速	km/h	0~10.0	
		低 速	km/h	0~5.5	
	最小回転半径		m	1.7	
	登坂能力		度	25(空車)	
	最大安定傾斜角度	左	度	30(空車)	
右		度	30(空車)		
動力伝達装置	主変速形式			H S T (2速モータ)	
	操行装置形式			2ポンプ2モータ	
	H S T オイル容量		ℓ	45	
	ブレーキ形式			ネガティブブレーキ	
	クローラ			320×58×90	
ウインチ装置	操作方式			-	有線リモコン
	ドラム作動方式			-	油圧モータ
	ウインチ直引き能力		kN(kg)	-	7.8(800)
	ポール吊り上げ能力		kN(kg)	-	-
	ワイヤ巻き取り長さ		m	-	約80 (ワイヤφ8mmにて)
	ドラム巻き取り速度	正 転	m/min	-	23.5
逆 転		m/min	-	23.5	

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部 品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	オイル交換用ガイド板	1	
4	フォワードの安全な使い方	1	(社) 日本機械化協会編
5	林内作業車に係わる通達集	1	(社) 日本機械化協会編

運転前の準備

走行路の確保

注 意

- ・ 本製品の使用にあたっては、安全な走行路の確保が必要です。下記の注意事項を遵守して、安全な走行路を確保してください。

走行路の確保に関する注意事項

1. 走行路は本製品が安全に走行できる幅員とし、少なくとも2.0m以上とし、走行路の曲線部は必要に応じて幅員を大きくしてください。
2. 斜面を横断する走行路は切取り路面を原則とし、盛土面については必要な補強措置をとってください。
3. 走行路の勾配は、20° 以下としてください。
4. 木橋等は、本製品の走行に十分耐えられる材料および構造としてください。
5. 走行路は、なるべく凹凸のないよう整地しておくとともに、根株、岩石等は走行に支障のないようあらかじめ除去してください。
6. 土場は土砂の崩壊、落石、流水等のおそれのない場合を選定し、本製品およびトラックの方向転換が安全にできる広さを確保してください。
7. 走行路を確保するための作業を行うときは、作業現場の崩壊および浮石等の落下の防止に十分配慮してください。

始業点検

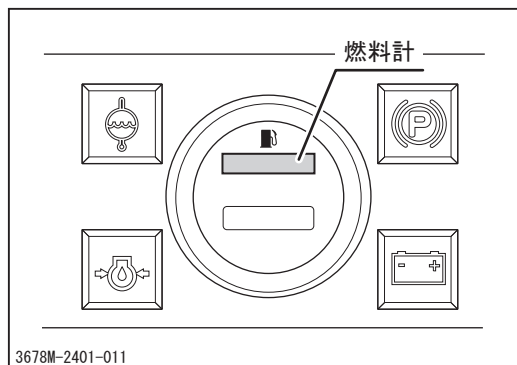
運転前には必ず始業点検を行ってください。

点検の要領については「定期点検表」(☞31ページ)を参照してください。

燃料の点検と補給

警告

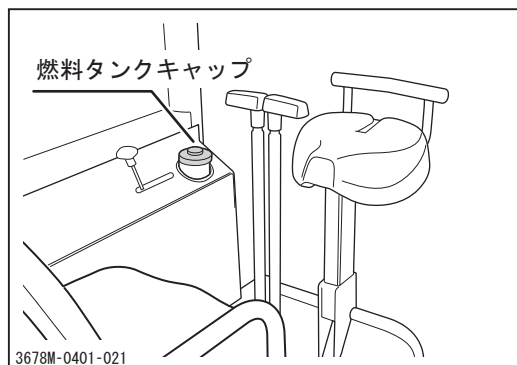
- ・ 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。

アドバイス

- ・ 燃料計はキーを「 | (ON) 」にして約5秒後に残量を表示します。

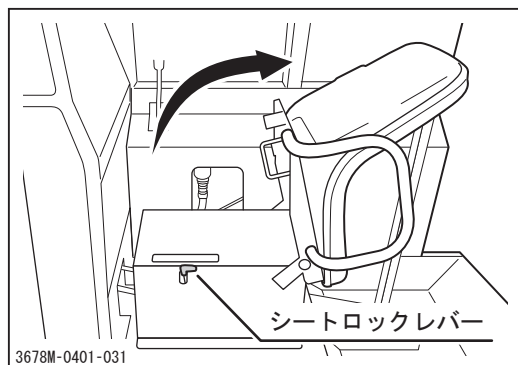


2. 燃料タンクキャップのロックをキーで解除し、燃料タンクキャップを開けます。
3. 燃料を補給します。
4. 燃料タンクキャップを確実に閉めキーでロックします。

アドバイス

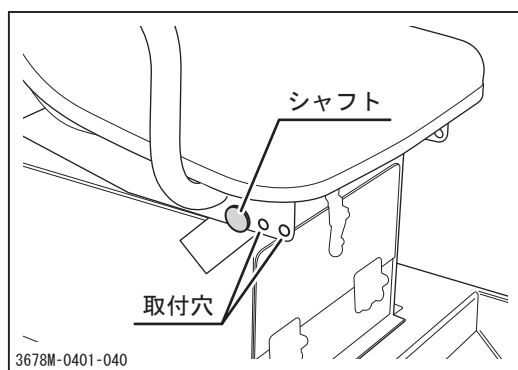
- ・ 使用燃料：軽油
- ・ 燃料タンク容量：45ℓ

シートの倒しかた



1. シートロックレバーを押し下げ、ロックを解除します
2. シートを前方に倒します。

シート位置の調節



1. シャフトを取り付ける穴の位置を変更することでシート位置を調節します。



運転のしかた

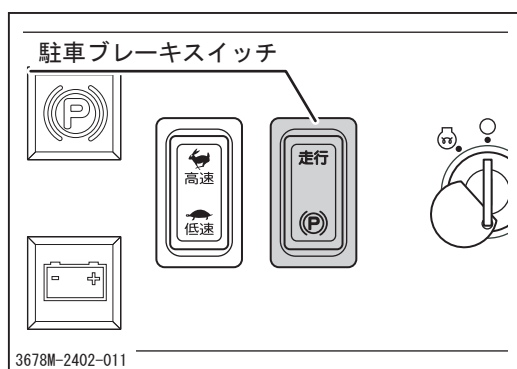
始動のしかた


警告

- ・ エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。
- ・ 始動は必ず乗車して行ってください。万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。


注意

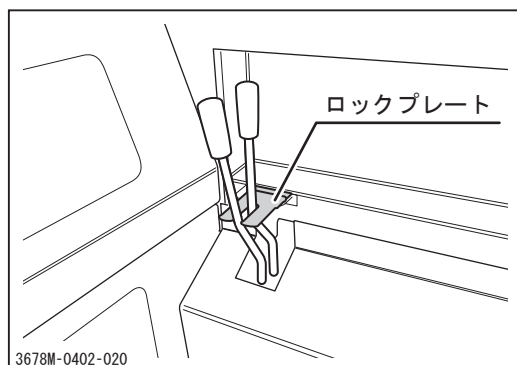
- ・ エンジン回転中は、メインスイッチを「 (始動)」の位置に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。
- ・ 15秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「 (OFF)」の位置に戻し、30秒以上休んでから再始動してください。
- ・ 冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



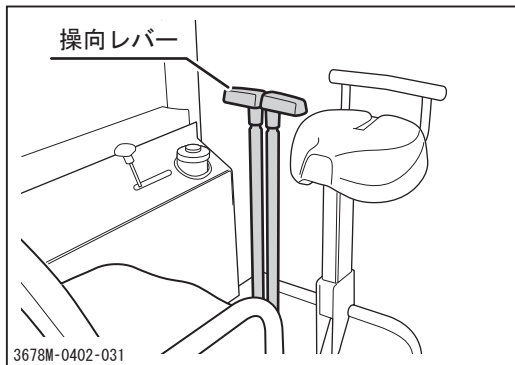
1. 駐車ブレーキスイッチが「 (駐車)」の位置に入っていることを確認します。

アドバイス

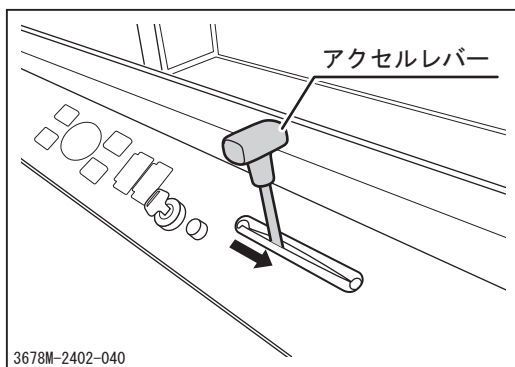
- ・ 駐車ブレーキスイッチが「 (駐車)」の位置に入っていないとエンジンを始動できません。



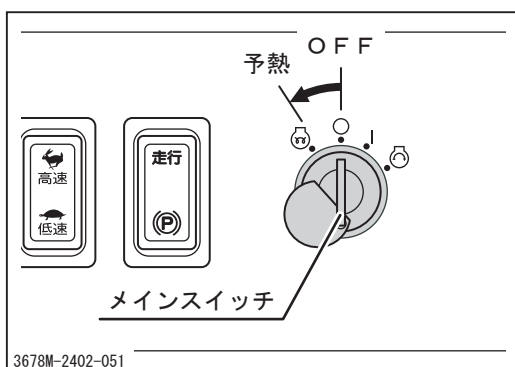
2. ダンプレバーおよびサイドポールレバーが中立の位置にあり、ロックされていることを確認します。




3. 操向レバーが中立の位置にあることを確認します。



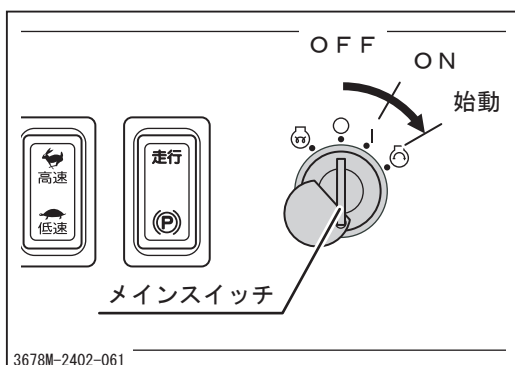
4. アクセルレバーを「 (高速)」側に少し動かします。





5. メインスイッチを「 (予熱)」の位置に回し、十分に予熱します。

👉 アドバイス

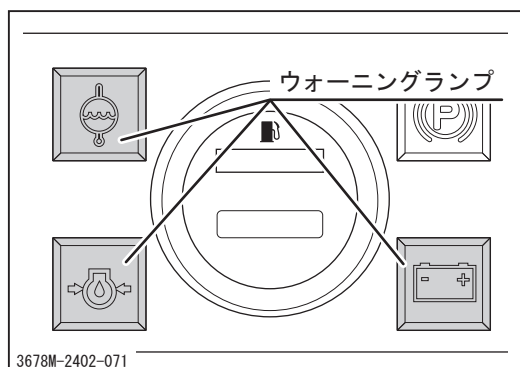
- ・常温時で約10秒、寒冷時（外気温が -5°C 以下）で約20～30秒予熱してください。
- エンジンが暖まっている場合は予熱する必要はありません。



6. メインスイッチを「 (始動)」の位置まで回し、エンジンを始動させます。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に「 (ON)」の位置に戻ります。

👉 アドバイス

- ・頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリーを充電するようにしてください。



7. 各ウォーニングランプ（冷却水温、オイルランプ、チャージランプ）が消灯していることを確認します。
点灯したままの場合は「不具合発生時の処置」（☞69ページ）を参照し、適切な処置を行ってください。
8. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

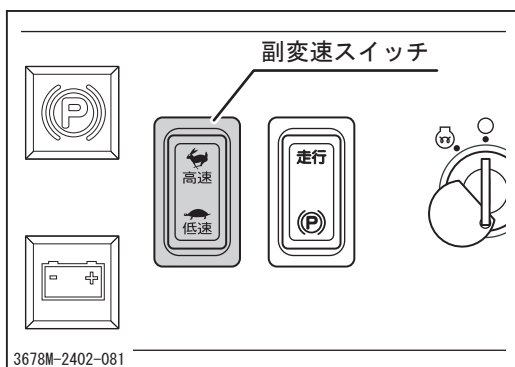
👉 アドバイス

- ・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

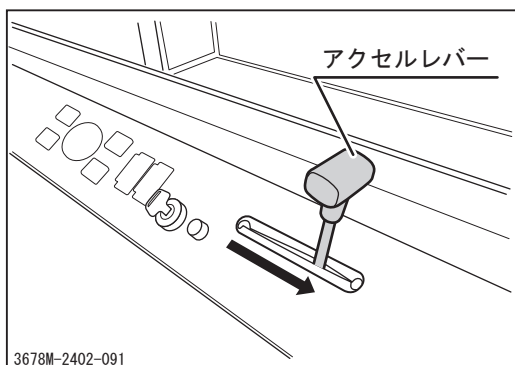
運転のしかた

 警告

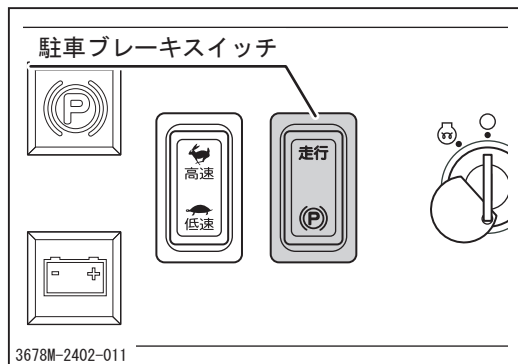
- ・ 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- ・ 発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。
- ・ 旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。
- ・ 急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 走行中に駐車ブレーキスイッチを「**(P)**（駐車）」に入れたり、メインスイッチを「**○**（OFF）」の位置にしたりしないでください。運転者が振り落とされたり、車両が転倒したりするおそれがあります。
- ・ 走行操作は必ず乗車して行ってください。万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。



1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 副変速スイッチを任意の位置に入れます。



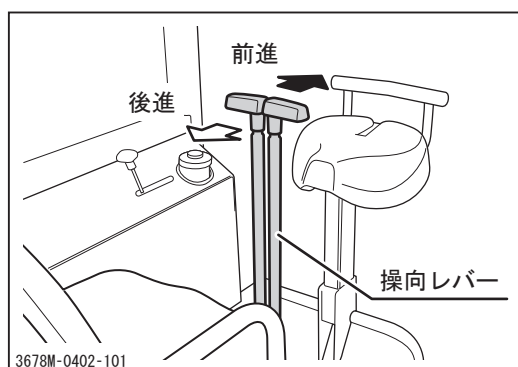
3. アクセルレバーを「（高速）」側に動かし、エンジンの回転数を上げます。



4. 駐車ブレーキスイッチを「走行」の位置にします。

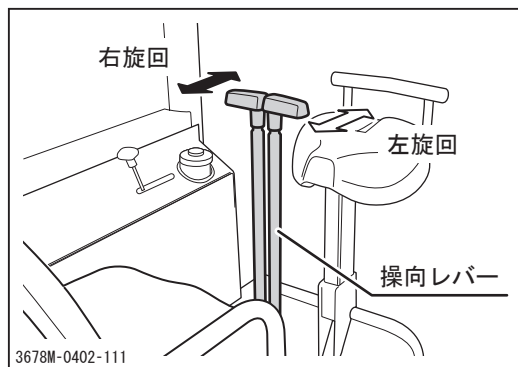
アドバイス

- ・駐車ブレーキスイッチが「**(P)**（駐車）」に入っている状態では、操向レバーを操作しても車両は動きません。



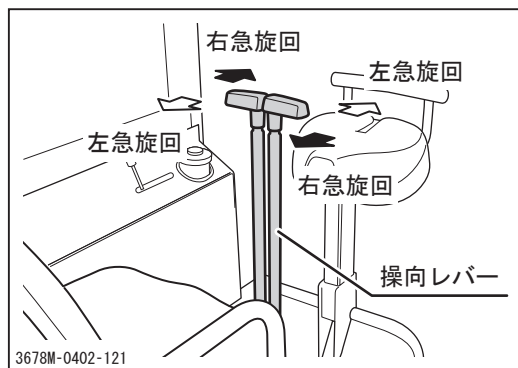
前後進する場合

5. 両方の操向レバーを進行方向に徐々に倒し、ゆっくりと前後進させます。速度は操向レバーを倒す量により、任意に調節することができます。



旋回する場合

6. 右へ旋回する場合は左側の操向レバーを、左へ旋回する場合は右側の操向レバーを進行方向に徐々に倒し、ゆっくりと旋回します。旋回半径は操向レバーを倒す量により、任意に調節することができます。



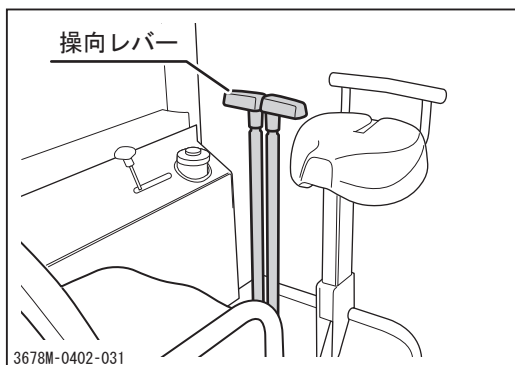
スピンターンする場合

7. 右へ旋回する場合は右側の操向レバーを後方に、左側の操向レバーを前方に倒します。左へ旋回する場合は左側の操向レバーを後方に、右側の操向レバーを前方に倒します。

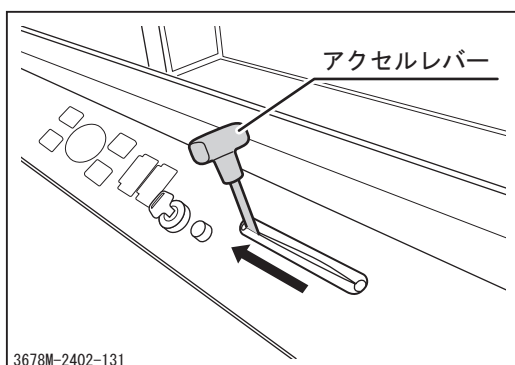
停止のしかた

！ 警 告

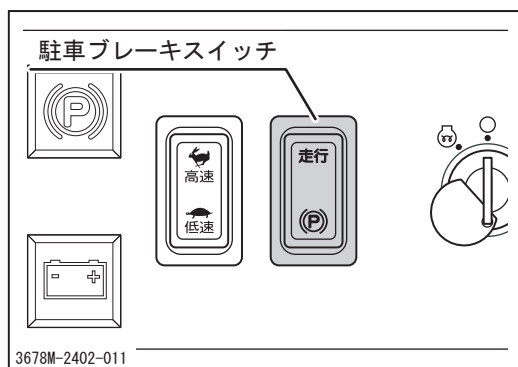
- ・ 操向レバーは、必ず中立位置で手を離してください。
- ・ 操向レバーが中立位置になると、自動的に駐車ブレーキがかかります。
- ・ 急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。
- ・ 駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。
- ・ 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



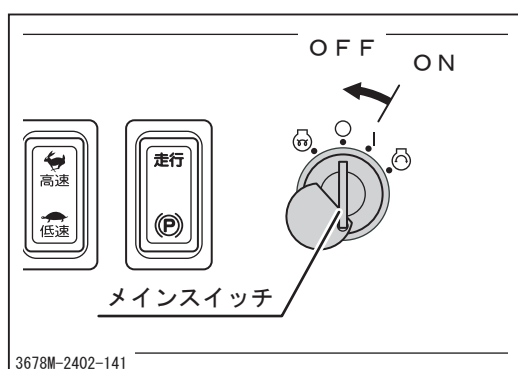
1. 操向レバーを「中立」の位置に戻し、車両を停止させます。



2. アクセルレバーを「 (低速)」側に動かし、エンジンの回転数を下げます。



3. 駐車ブレーキスイッチを「**(P)** (駐車)」の位置にします。



4. メインスイッチを「**○ (OFF)**」の位置に回し、エンジンを停止させます。
5. キーを抜き取ります。

作業のしかた

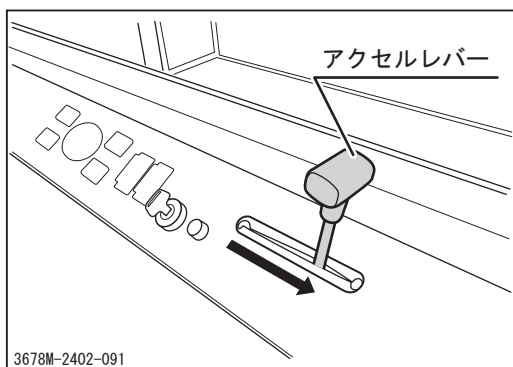
！ 危険

- ・ 積み込み、荷降ろしは材の転落のおそれのある区域に人がいないことを確認してから行ってください。
- ・ 積み込み、荷降ろし中は、材の転落のおそれのある区域に立ち入らないでください。

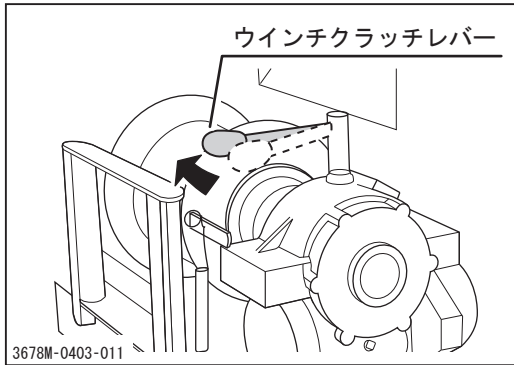
！ 警告

- ・ 作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- ・ ウインチ使用時は、ウインチ操作者および荷掛け作業者は互いに緊密な連絡を取り合って作業してください。
- ・ ウインチ回転中はワイヤに手を触れないでください。手を損傷・切断するおそれがあります。
- ・ 作業の前後に必ずエンジンルームと荷台下にごみの堆積がないことを確認し、ごみが堆積している場合は清掃してください。ごみが堆積したまま使用を続けると、エンジン、マフラーなどの熱により発火する危険性があります。

ウインチの操作（ウインチ仕様のみ）



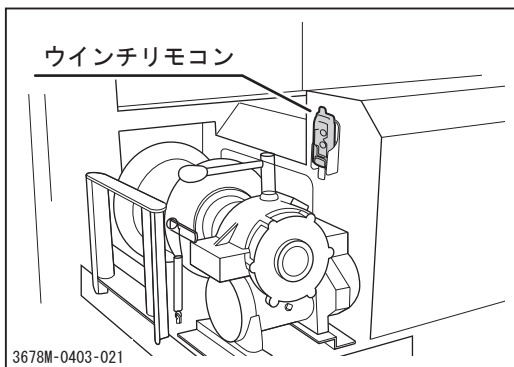
1. アクセルレバーを「（高速）」側に動か
し、エンジンの回転数を上げます。



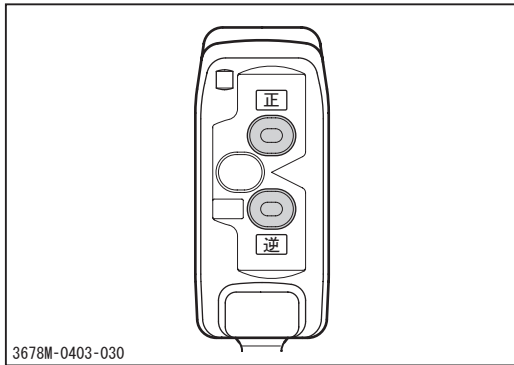
- ウインチクラッチレバーを「入」の位置に入れます。

👉 アドバイス

- ウインチクラッチレバーが入りにくいときは無理に入れずに、ウインチリモコンの「正」または「逆」ボタンを少し押して、確実にクラッチを入れてください。



- ウインチリモコンのコードを伸ばします。



- 巻ドラムを正転させる場合はウインチリモコンの「正」ボタンを、逆転させる場合はウインチリモコンの「逆」ボタンを押して、巻ドラムを回転させます。
- 回転を止めるときはボタンを離します。

木寄せ（ウインチ仕様のみ）

警告

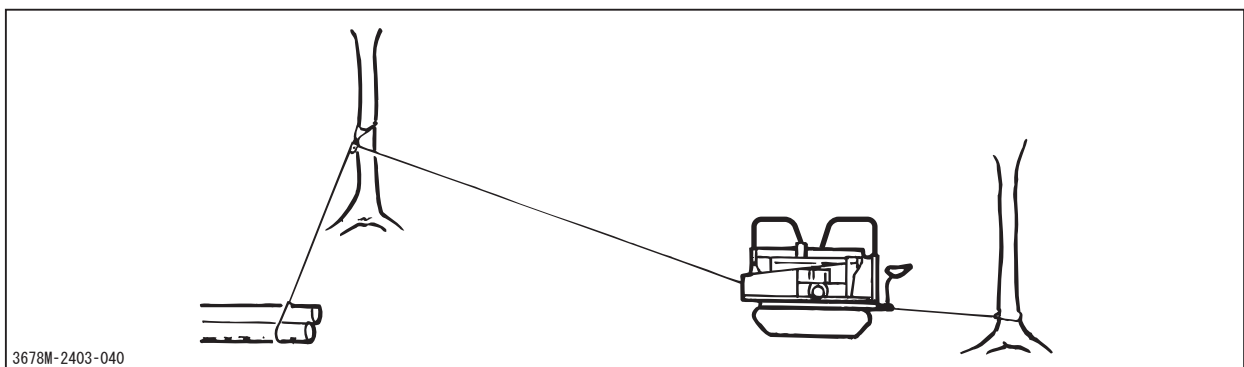
- ・ ウインチで材を引き寄せるときは、車両を立木や伐根にワイヤロープ等でしっかりと固定してください。
- ・ 直引きによる木寄せ作業は、ウインチの巻き込み方向と材の引き寄せ方向が同一になるようにしてください。ただし急斜面において材の引き上げまたは引き下げを行う場合は、ガイドブロック等を用いて安全を確保してください。
- ・ 材を引き寄せるときは伐根、立木等の障害物を避けるように作業を行ってください。
- ・ ウインチと立木につけたガイドブロックは必ず正対させてください。

ウインチで地引きするとき

車両を立木や伐根にワイヤロープ等でしっかりと固定し、立木等を利用し、なるべく高い位置から材を引きます。

アドバイス

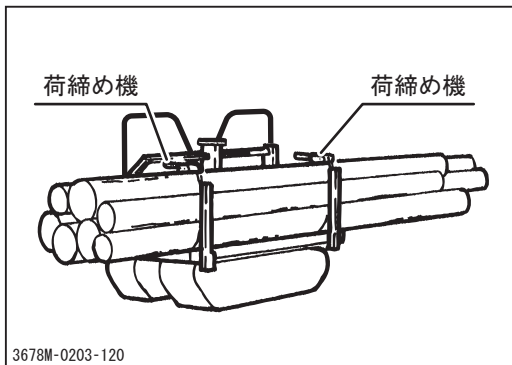
- ・ 作業荷重：800kg以下



荷締め

⚠ 注意

- ・積荷は荷締め機等で締め込んで確実に固定してください。



1. 荷台側板のフックとサイドポール上端のフックを荷締め機等で締め込み、確実に固定します。

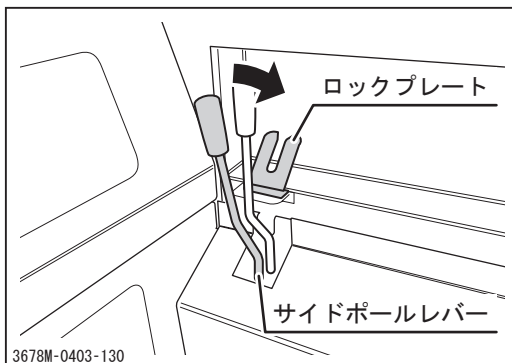
👉 アドバイス

- ・荷台側板のフックとサイドポール上端のフックで固定しておくこと、荷降ろしの際にサイドポールが下敷きにならず、作業がしやすくなります。

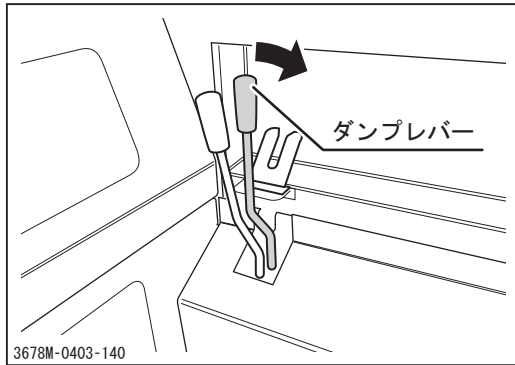
荷降ろし

⚠ 警告

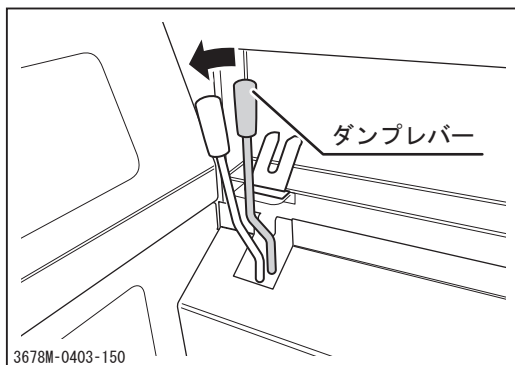
- ・荷降ろしは荷の上部から順に行い、中抜きはしないでください。
- ・荷台中央部を下降させる時は、荷台下に人および異物等のないことを確認してから行ってください。



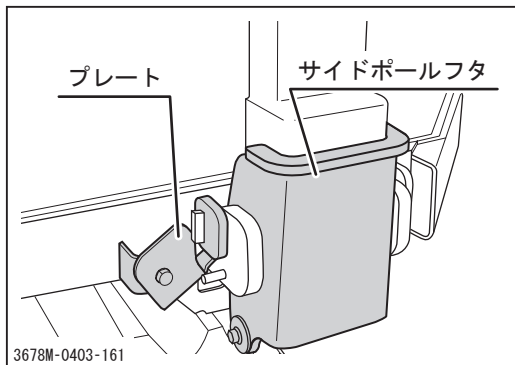
1. ロックプレートを解除し、サイドポールレバーを「解除」の方向に倒し、サイドポールを外します。



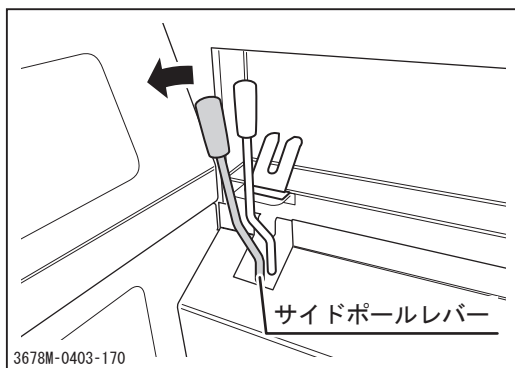
2. 荷台上に材が残っている場合は、ダンプレバーを「上昇」の方向に倒し、荷台中央部を上昇させ、材を降ろします。



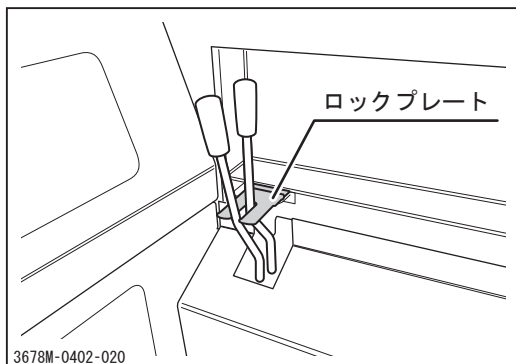
3. 荷降ろし終了後、ダンプレバーを「下降」の方向に倒し、荷台中央部を下降させ、元の位置に戻します。



4. サイドポールを取り付け、サイドポールフタとプレートで仮固定します。



5. サイドポールレバーを「ロック」の方向に倒し、サイドポールを確実に固定します。



6. ロックプレートでレバーを固定します。

ワイヤーロープの取り扱い

⚠ 注意

- ・ 素線（フィラ線を除く）の10分の1以上が切断しているものは使用しないでください。
- ・ 直径の減少が公称径の7%を越えるものは使用しないでください。
- ・ キンク（もつれ）および著しい形くずれまたは腐食のあるものは使用しないでください。
- ・ ワイヤをドラムに巻くときは整えて巻いてください。不整に巻くと、一方だけに重なったり、食い込んだりして、著しい摩耗やつぶれによりワイヤの寿命を縮めます。
- ・ ワイヤロープは最大に引き出した場合、ドラムに二段巻以上残すことができる長さにしてください。
- ・ フック等については、接合部に加わる荷重によって破壊するおそれのないワイヤロープで確実に取付けてください。

	8mm	9mm
1号	3420kg	4330kg
2号	3240kg	4110kg

使用ワイヤの寸法

1. 巻きドラムに使用するワイヤは、直径8mm～9mm程度のものを使用してください。
ワイヤ切断荷重は左表のとおりです。

ワイヤの取付方法

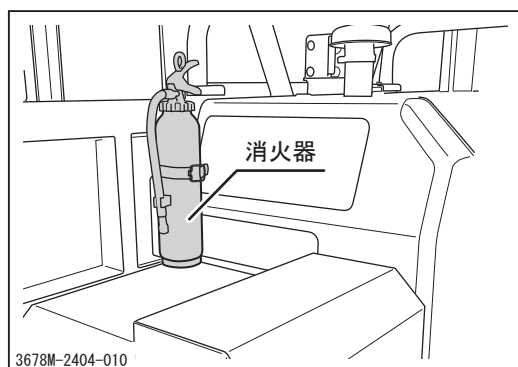
1. ワイヤをドラムに巻きつけるとき、最初の一段を強く張って整えて巻きます。次の段からはこれが基礎になり正確に巻くことができます。

消火器

！ 注 意

- ・ 付属の消火器取扱説明書を読み、理解した上で、正しい取り扱いをしてください。

消火器の位置



消火器はバッテリーカバー奥に装着されています。

消火器の使用方法

消火器の使用方法は付属の消火器取扱説明書を参照してください。

定期点検表

⚠ 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

- ・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
原 本 動 機 体	始 動 性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
		グローブラグが正常に作動すること	○	○	○	
	回 転 の 状 態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと		○	○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にアクセルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排 気 の 状 態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
	エ ア ク リ ー ナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	清掃/交換：☞46ページ
	締 め 付 け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
	圧 縮 圧 力	圧縮圧力が正規であること ※アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
原 動 機	本体 エンジン マウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと			○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと			○	
	潤滑装置	油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞41ページ
		ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
		オイルフィルタに著しい汚れまたは損傷がないこと			○	交換：☞43ページ
	燃料装置	燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞49ページ
		噴射ノズルの噴射圧力が正規であり、噴霧状態が正常であること ※アイドル時および加速時に回転の状態および排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
		燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	清掃：☞48ページ
	冷却装置	冷却水量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞44ページ
		ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れがないこと	○	○	○	
		ラジエータフィンに目詰まりがないこと	○	○	○	
		ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		ラジエータキャップのバルブが正常に機能すること			○	
		ラジエータキャップのバルブシート面に損傷がないこと			○	
		ファンベルトの張りが基準値以内であること			○	点検/調整：☞47ページ
		ベルトに著しい摩耗または損傷がないこと			○	
		冷却ファン、カバー、ダクト等に亀裂、損傷または著しい変形がないこと			○	
		冷却ファン、カバー等の取付ボルトまたはナットに緩みのないこと			○	
電気装置	充電装置	正常に作動すること			○	販売店に点検を依頼してください
		電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	
	バッテリー	端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
		接続部に緩みがないこと		○	○	
配線	配線に損傷がないこと		○	○		

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
動力 伝達 装置	H S T ポンプ	前・後進および旋回時に正常に作動し、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		作動油タンク内の油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞50ページ
		作動油タンク周辺からの油漏れがないこと			○	
	操 向 レ バ ー	ロッド、リンク、軸受部および接続部に変形およびガタがないこと。		○	○	
接続ピンに損傷または著しい摩耗がないこと			○	○		
走 行 装 置	スプロケット アイドラ ローラ アップローラ	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		走行時に軸部からの異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部からの油漏れがないこと	○	○	○	
		走行時にローラブラケットが地盤の凹凸にしたがって円滑に首振り動作を行うこと			○	
		給脂が十分であること		○	○	給脂：☞56ページ
	ク ロ ー ラ	スチールコードに切断または著しい損傷がないこと	○	○	○	
		ゴムの著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		芯金の脱落または折れがないこと	○	○	○	
		クローラの張りが適切であること			○	調整：☞53ページ
	履帯調整装置	調整装置のシリンダ内にグリースを注入した時に正常に作動すること		○	○	
	ト ラ ッ ク フ レ ー ム	亀裂、変形、損傷または摺動部の著しい摩耗がないこと		○	○	
亀裂が疑わしい場合は探傷器等で調べる 取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	○		
制動 装置	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること	○	○	○	
	操 向 レ バ ー	操向レバー中立時に1/5勾配で停止状態を保持できること				
油圧 装置	油 圧 ポ ン プ	パイプおよびホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと	○	○	○	
		油圧ポンプ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
油 圧 装 置	油圧ポンプ	負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること ※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい			○	
	配管 (ホース類、 高圧パイプ)	配管に亀裂、損傷、劣化またはねじれがないこと	○	○	○	
		配管継手部からの油漏れがないこと	○	○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	油圧シリンダ	円滑に作動すること	○	○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと	○	○	○	
	コントロールバルブ	取付状態が適正であること		○	○	
油圧シリンダ作動時に正常に作動し確実に停止すること		○	○	○		
本体、配管および継手部からの油漏れがないこと		○	○	○		
車 体 ・ 安 全 装 置 等	車 お よ び 車 体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カ バ ー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	シ ー ト	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		展開、格納またはロックに異常がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	マ ー ク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
	計 器 類	エンジン運転時に各計器が正常に作動すること	○	○	○	
ホ ー ン	スイッチ操作時に正常に作動すること	○	○	○		

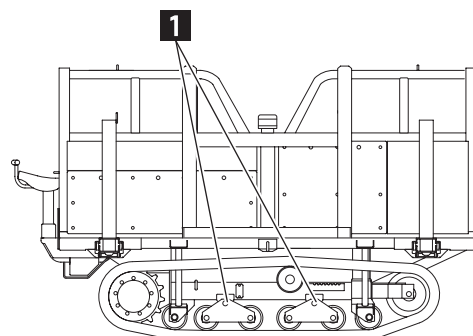
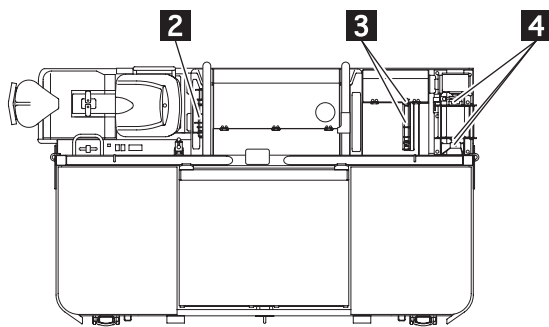
項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
作 業 装 置	巻 ド ラ ム (ウインチモータ)	スプールが円滑に作動すること	○	○	○	
		取付状態が適正であること		○	○	
		本体、配管および継手部から油漏れのないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	ウ イ ン チ	正常に作動し、異音がないこと	○	○	○	
	ダンプレバー	レバーを操作し、荷台が正常に上昇または下降すること	○	○	○	
	サイドポール レ バ ー	レバーを操作し、サイドポールが正常にロックまたは解除されること	○	○	○	
ワイヤロープ	摩耗、キンク、素線の切断、腐食等がないこと	○	○	○		
総 合 テ ス ト	走行および荷役装置の操作を行い、各装置が正常に作動し、異音、異常振動または異常発熱がないこと			○		

給油・給脂・給水一覧表

項 目	補 給 (交 換) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	軽油	45ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：50時間 2回目以降：200時間毎	エンジンオイル API分類 CD級以上 SAE分類 10W-30	9.7ℓ
H S T オ イ ル (油圧作動油兼用)	交換 初回：500時間 2回目以降：1000時間毎	高粘度指数油圧作動油 VG46 またはエンジンオイル API分類 CD級以上 SAE分類 10W-30 ※寒冷地(-15℃以下)で使用 する場合は対摩耗性作動油 VG32を使用してください	45ℓ
走 行 モ ー タ 潤 滑 油	交換：初回：200時間 2回目以降：1000時間毎	ギヤオイル API分類 GL4 SAE分類 #90	0.6ℓ
ウ イン チ モ ー タ 潤 滑 油	交換：1年毎	ギヤオイル ISO VG150	0.5 ℓ
グ リ ー ス	100時間毎	リチウム万能グリース (調度2号相当)	-
エ ン ジ ン 冷 却 水	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 300時間毎	不凍液混合水	8.2ℓ
バ ッ テ リ 液	補給 50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	-



※ 4 はウインチ付きのみ



3678M-2502-010

消耗部品（交換部品）一覧表

▲ 注 意			
・ 消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。			

項 目	部品番号	交 換 イ ン タ ー バ ル	個 数		
エンジン					
エンジンオイルフィルタカートリッジ	36610001300	400時間毎(初回は50時間)	1		
ホース(ラジエータ)	52290731000	2年毎	1		
	36610038000	2年毎	1		
	36780357000	2年毎	1		
	36780354000	2年毎	1		
	36780355000	2年毎	1		
エアクリーナエレメント(外側)	R1404-4227-0	1000時間毎	1		
エアクリーナエレメント(内側)	R2401-4228-0	1000時間毎	1		
Vベルト(ファンベルト)	IG780-9701-0	不具合があれば交換	1		
ワイヤ(エンジンコントロール)	36166215000	不具合があれば交換	1		
燃料系統					
フューエルフィルタカートリッジ	36640221500	500時間毎	1		
ホース(燃料)	36780241000	2年毎	1		
	36780245000	2年毎	2		
	36780253000	2年毎	1		
	36780255000	2年毎	1		
油圧系統					
ラインフィルタエレメント	36786107100	500時間毎	1		
サクシオンフィルタ	36636029000	1000時間毎	1		
ホース (油圧)	配管接続ポート				
	HSTポンプ後右 A2	HSTモータ右上 P1	36786205000	2年毎	1
	HSTポンプ前右 A1	HSTモータ左下 P1	36786206000	2年毎	1
	HSTポンプ後左 B2	HSTモータ右下 P2	36786207000	2年毎	1
	HSTポンプ前左 B1	HSTモータ左上 P2	36786208000	2年毎	1
	HSTモータ左ドレン D	オイルタンク	36786215000	2年毎	1
	HSTモータ右ドレン D	オイルタンク	36636217000	2年毎	1
	ポンプ前上ドレン	オイルクーラ上	36786236000	2年毎	1
	オイルクーラ下	オイルタンク	36786237000	2年毎	1
	ソレノイドバルブ A2	チーズ(P S)	36786282000	2年毎	1
	チーズ(ソレノイドバルブ A1)	チーズ(P 3)	36636279000	2年毎	1
	チーズ(ソレノイドバルブ A1)	チーズ(サーボ)	52296131000	2年毎	1
	チーズ(モータ右 P3)	モータ左 P 3	36786222000	2年毎	1
	チーズ(モータ右 PS)	モータ左 P S	36786225000	2年毎	1
	チーズ(モータ左 P3)	モータ右 P 3	36786213000	2年毎	1

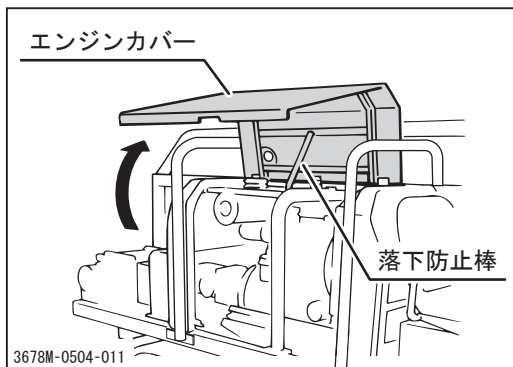
項	目	部品番号	交換インターバル	個数	
ホース	配管接続ポート				
	チーズ(モータ左 PS)	モータ右 PS	52296125000	2年毎	1
	ソレノイドバルブ T	オイルタンク	36786283000	2年毎	1
	ギヤポンプ吐出 後上	コントロールバルブ P	36786276000	2年毎	1
	ギヤポンプ吸込 後下	オイルタンク(フランジ)	36636209000	2年毎	1
	ソレノイドバルブ P	チーズ(ラインフィルタOUT)	36786224000	2年毎	1
	コントロールバルブ T	ラインフィルタIN	36786277000	2年毎	1
	HSTチャージ	チーズ(ラインフィルタOUT)	36786278000	2年毎	1
	HSTサーボ後	チーズ(サーボ)	36786281000	2年毎	1
	コントロールバルブ A2	シリンダ下	36636238000	2年毎	1
	コントロールバルブ B2	シリンダ上	36636238000	2年毎	1
	コントロールバルブ A1	チェックベン D	36636226000	2年毎	1
	コントロールバルブ B1	チェックベン C	36636226000	2年毎	1
	チェックベン A	シリンダ前下	36636228000	2年毎	1
	チェックベン B	シリンダ前上	36636229000	2年毎	1
	チェックベン A	シリンダ後下	36636231000	2年毎	1
	チェックベン B	シリンダ後上	36636231000	2年毎	1
		オイルタンクエアブリーザ	36786284000	2年毎	1
走行装置					
	クローラ	36632111000	不具合があれば交換	2	
	スプロケット15T	36632106000	不具合があれば交換	2	
	ローラ AAssy	52292201000	不具合があれば交換	8	
	ローラ BAssy	52292211000	不具合があれば交換	4	
	シジテンリンAssy	36402218000	不具合があれば交換	2	
	ユウドウリンAssy	36402331000	不具合があれば交換	2	
電装品					
	バッテリー	36610502000	不具合があれば交換	1	
	ヒューズ5A(タン)	09801000502	不具合があれば交換	1	
	ヒューズ10A(赤)	09801001002	不具合があれば交換	2	
	ヒューズ15A(青)	09801001502	不具合があれば交換	1	
	ヒューズ40A(緑)	09801004003	不具合があれば交換	1	
	ヒューズ50A(赤)	09801005003	不具合があれば交換	1	

カバーの開けかた

！ 注 意

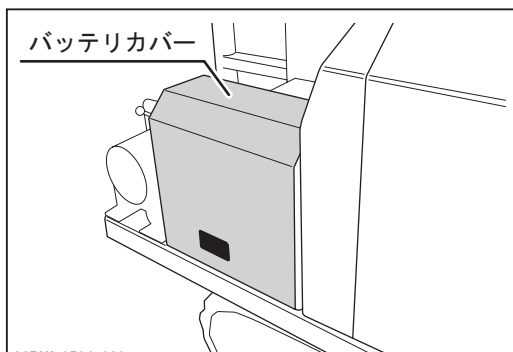
- ・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- ・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

エンジンカバーの開けかた



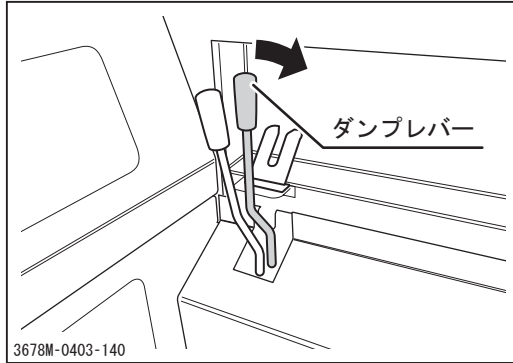
1. エンジンカバーを持ち上げます。
2. 落下防止棒にてエンジンカバーを確実に固定します。

バッテリーカバーの開けかた



1. バッテリーカバーを持ち上げます。

荷台中央部の開けかた



1. エンジンを始動します。(☞16ページ)
2. ダンプレバーを「上昇」の方向に倒し、荷台中央部を上昇させます。
3. エンジンを停止します。(☞21ページ)

エンジン

警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

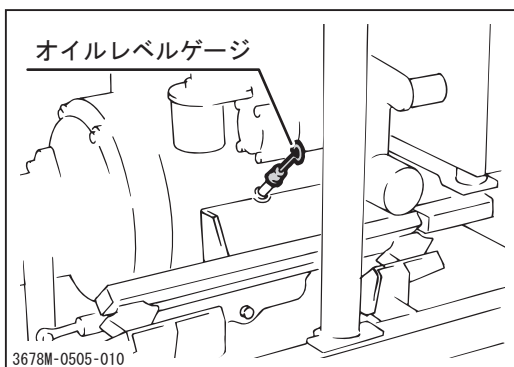
エンジンオイルの点検・補給・交換

警告

- ・エンジン停止直後はオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。
- ・廃油は適切な処理をしてください。

注意

- ・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

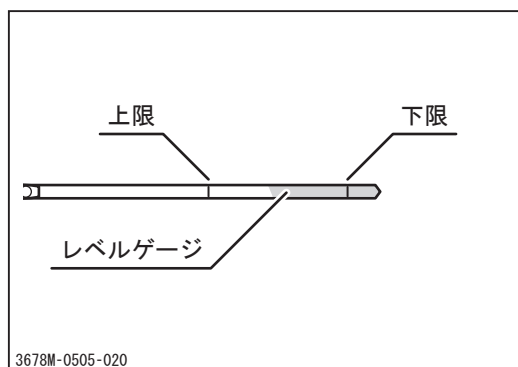


点検

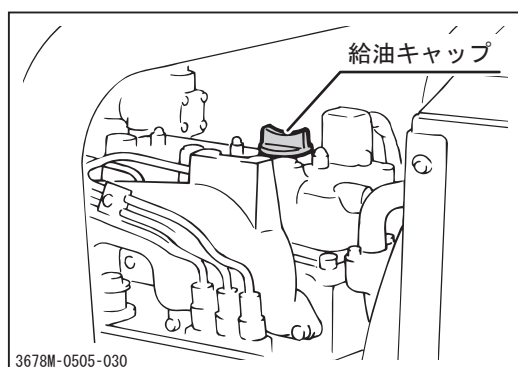
1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開き、確実に固定します。
(☞39ページ)
3. オイルレベルゲージを引き抜き、レベルゲージについてオイルを拭き取り、もう一度挿入して再び引き抜きます。

アドバイス

- ・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。



4. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合は補給します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

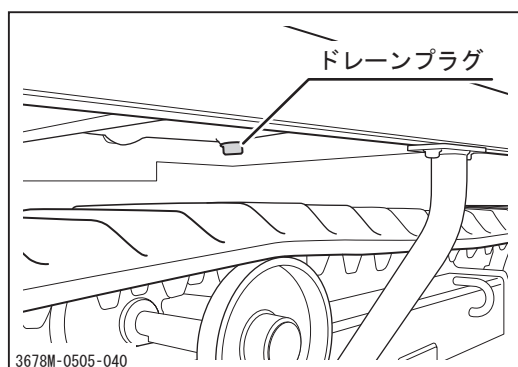


補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
4. 給油プラグを取り付けます。

アドバイス

- ・指定オイル：☞36ページ

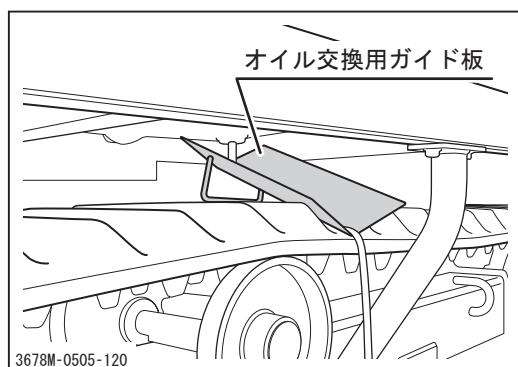


交換

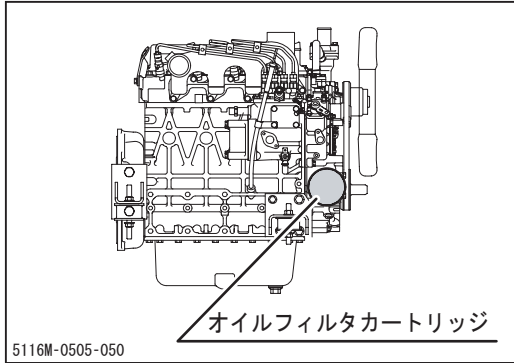
1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取り外し、オイルを排出します。その際、付属のオイル交換用ガイド板を使用し、クローラ等にオイルがかからないようにします。
3. ドレンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

アドバイス

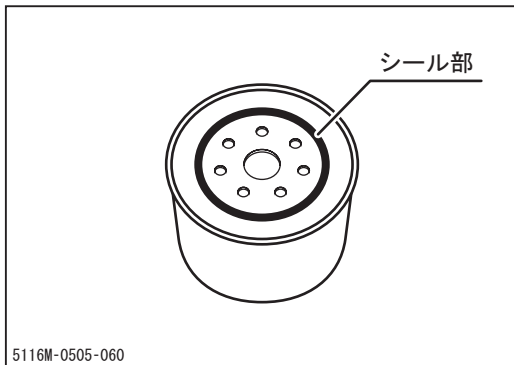
- ・指定オイル：☞36ページ
- ・オイル量：☞36ページ



エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



1. オイルを排出します。(☞41ページ)
2. オイルフィルタレンチを使用してオイルフィルタカートリッジを取り外します。
3. エンジン側のフィルタハウジングベースを清掃します。



4. 新品のオイルフィルタカートリッジのシール部にきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
5. オイルフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
6. エンジンオイルを補給します。(☞42ページ)
7. エンジン始動後、取り付け部からオイルの漏れがないか確認します。

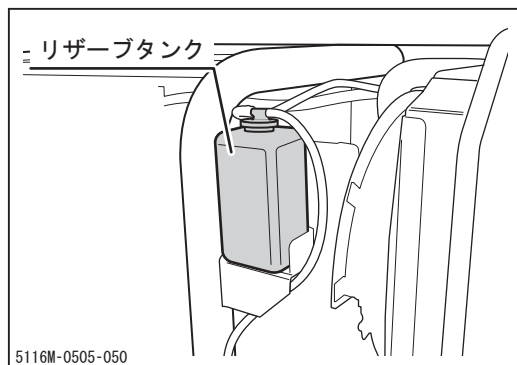
エンジン冷却水の点検・補給・交換

警告

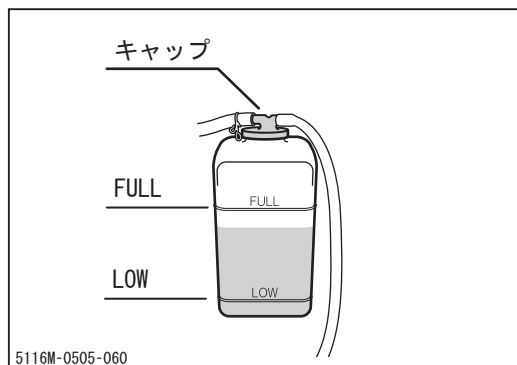
- ・エンジン停止直後にラジエータキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。冷却水が冷えてから開けてください。
- ・不凍液は引火性があるので、火気を近づけないでください
- ・冷却水は適切な処理をしてください。

注意

- ・冷却水が不足すると、オーバーヒートの原因となりますので、指定の冷却水を過不足なく補給してください。

**点検**

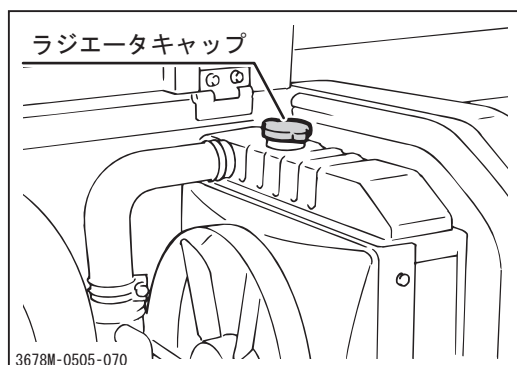
1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開き、確実に固定します。
(☞39ページ)
3. リザーブタンクを目視点検し、冷却水量が「LOW」と「FULL」の間にあることを確認します。
4. 冷却水量が「LOW」より少ない場合は補給します。

**補給**

1. キャップを取り外し、指定の冷却水を「FULL」まで補給します。
2. キャップを取り付けます。

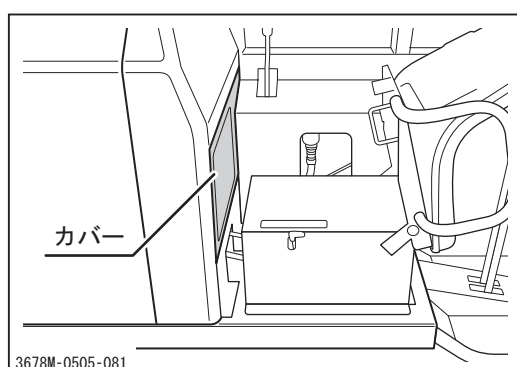
アドバイス

- ・指定冷却水：☞36ページ

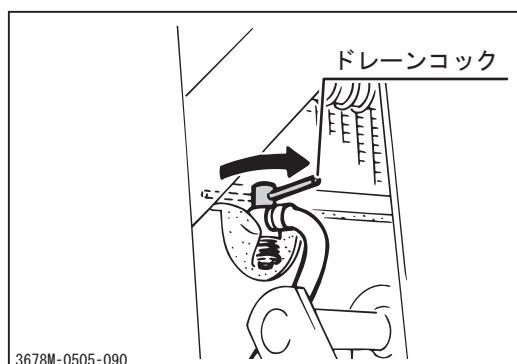


交換

1. 冷却水を抜き取る適切な容器を用意します。
2. ラジエータキャップを取り外します。



3. シートを前方に倒します。(☞16ページ)
4. ボルト(4本)を取り外し、カバーを取り外します。



5. ドレーンコックを開き、冷却水を排出します。
6. ラジエータ内を洗浄します。
7. ドレーンコックを閉じます。
8. カバーを取り付けます。
9. 給水口より指定の冷却水を給水口いっぱいまで補給します。

👉 アドバイス

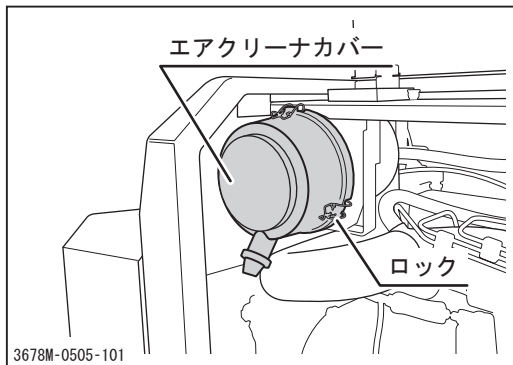
- ・ 指定冷却水 : ☞36ページ
- ・ 冷却水量 : ☞36ページ

10. リザーブタンク内の冷却水を交換します。
11. エンジンを5分間運転し、エア抜きを行います。
12. 給水口より冷却水を給水口付近まで補給します。
13. ラジエータキャップを取り付けます。

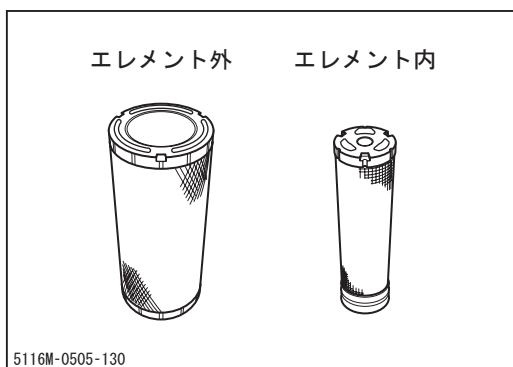
エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注 意

- ・ エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、毎日清掃するように心がけてください。
- ・ ほこりの多い場所で作業を行う場合には半日ごとに清掃するように心がけてください。
- ・ エレメントに穴が開いているときは、すぐに新品と交換してください。



1. エンジンカバーを開き、確実に固定します。
(☞39ページ)
2. ロックを外し、エアクリーナカバーを取り外します。
3. エレメントを取り外します。

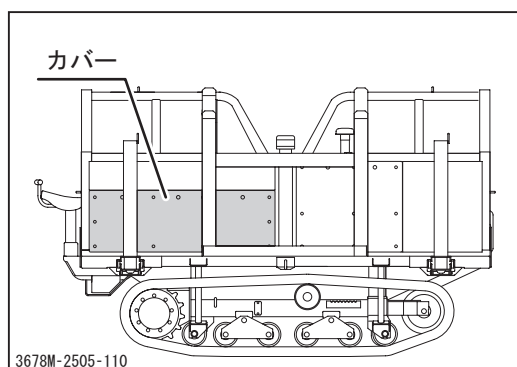


4. エレメントを軽くたたきながらゴミを落とします。または、エレメントを回しながら、圧縮空気を内側から吹き付けます。汚れのひどい場合は新品に交換します。
5. エアクリーナエレメントを取り付け、エアクリーナカバーを取り付けます。

冷却ファンベルトの点検・調整

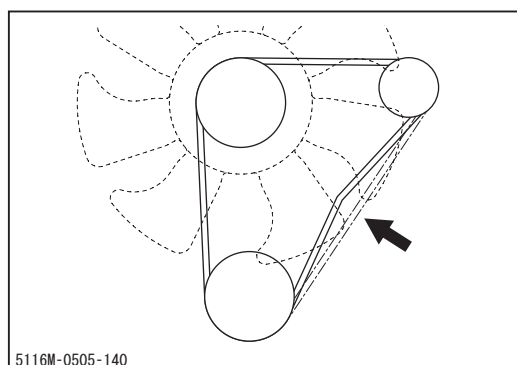
⚠ 注意

- ・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、冷却能力、発電能力が低下します。また、ベルトの寿命が短くなります。



点検

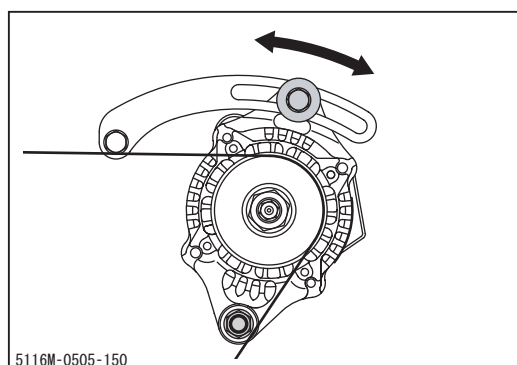
1. 荷台中央部を開きます。(☞43ページ)
2. ボルト(10本)を取り外し、カバーを取り外します。



3. ファンベルトの中央を指で押さえ、ファンベルトの張りを点検します。たわみ量が適正でない場合にはベルトの張りを調整します。

👉 アドバイス

- ・たわみ量：約10kgで約7~9mm



調整

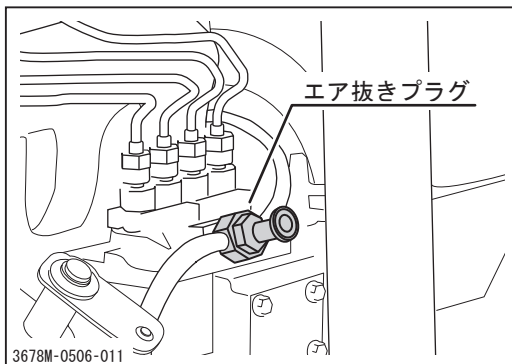
1. オルタネータを取り付けているボルトを緩めます。
2. オルタネータを動かし、ベルトの張りを調整します。

燃料系統

 **警告**

- ・ 作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・ 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- ・ 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。

燃料系統のエア抜き

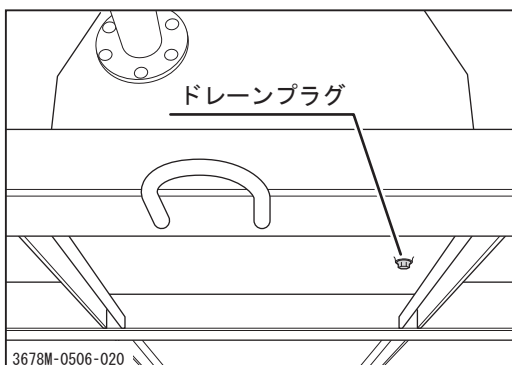


1. 燃料を補給します。
2. エンジンカバーを開き、確実に固定します。
(☞39ページ)
3. エア抜きプラグを緩めます。
4. メインスイッチを「 | (ON) 」にし、燃料ポンプを約5秒程度作動させます。
5. プラグを締め付けます。

 **アドバイス**

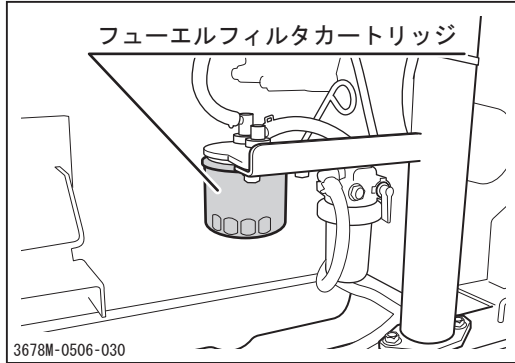
- ・ 燃料タンク内の燃料が無くなったときやフェューエルフィルタを交換したときには、燃料系統内に空気が入り、エンジンの始動ができなくなりますので、エア抜きを行ってください。

燃料タンクの水抜き

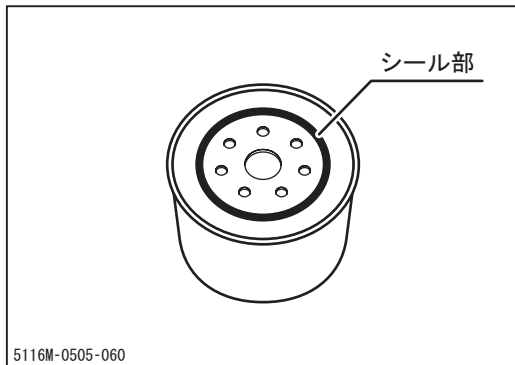


1. ドレーンプラグを取り外し、燃料と一緒に水や沈殿物などの混入物を排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. 燃料を補給し、燃料系統のエア抜きを行います。

フューエルフィルタカートリッジの交換



1. エンジンカバーを開き、確実に固定します。
(☞39ページ)
2. オイルフィルタレンチを使用してフューエルフィルタカートリッジを取り外します。



3. 新品のフューエルフィルタカートリッジのシール部にきれいな燃料を薄く塗布します。
4. フューエルフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
5. 燃料を補給し、燃料系統のエア抜きを行います。
6. エンジン始動後、取り付け部から燃料の漏れがないか確認します。

油圧系統

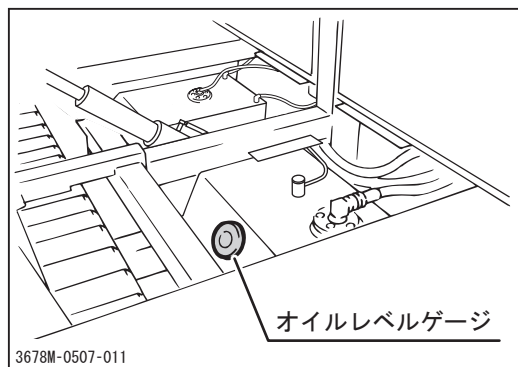
警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。
- ・廃油は適切な処理をしてください。

油圧作動油の点検・補給・交換

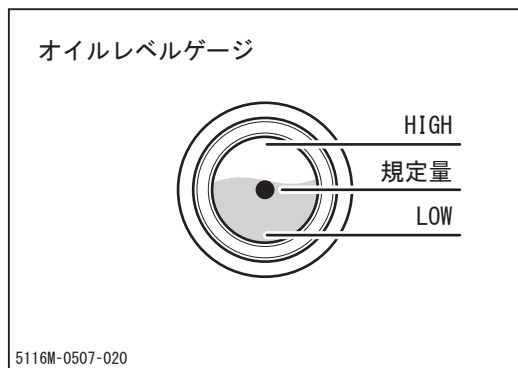
注意

- ・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。



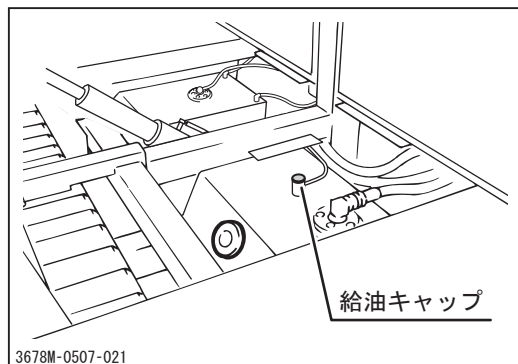
点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 荷台中央部を開きます。（☞40ページ）
3. オイルタンクのオイルレベルゲージを目視点検し、オイルの量および汚れを確認します。
4. オイル量が不足している場合は補給します。
5. オイルの汚れがひどい場合は交換します。



アドバイス

- ・オイル量の点検はエンジン始動前に行ってください。エンジン停止直後は正確なオイル量が点検できません。

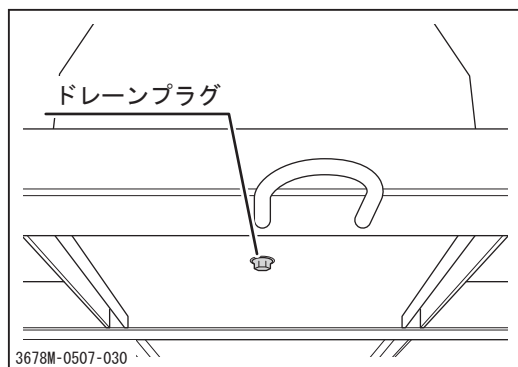


補給

1. 給油キャップを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
4. 給油キャップを取り付けます。

アドバイス

- ・指定オイル：☞36ページ



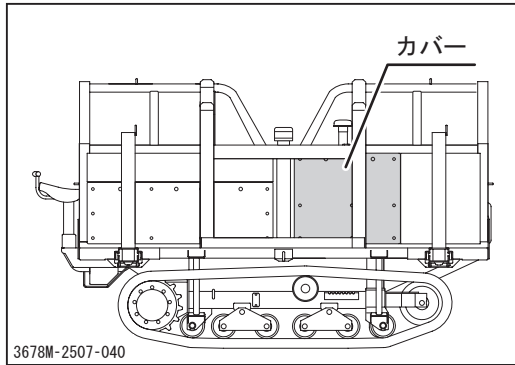
交換

1. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。
5. エンジンを始動し、油圧回路のエア抜きを行います。
6. オイル量を再度点検し、規定量入っていることを確認します。

アドバイス

- ・油圧作動油交換時はサクションフィルタも同時に交換してください。(☞52ページ)
- ・指定オイル：☞36ページ
- ・オイル量：☞36ページ

ラインフィルタカートリッジの交換



1. 荷台中央部を開きます。(☞40ページ)
2. ボルト (9本) を取り外し、カバーを取り外します。

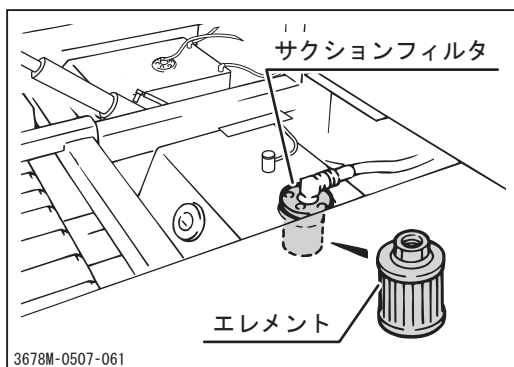


3. オイルフィルタレンチを使用し、ラインフィルタカートリッジを取り外します。
4. 新品のラインフィルタカートリッジのシール部にきれいなオイルを薄く塗布します。
5. ラインフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。

☞ **アドバイス**

- ・フィルタの取付部からオイルの漏れがないことを確認してください。

サクシヨンフィルタの交換



1. 荷台中央部を開きます。(☞40ページ)
2. 取付ボルトを取り外し、サクシヨンフィルタを取り外します。
3. 新しいサクシヨンフィルタを取り付けます。
4. オイルを補給します。

☞ **アドバイス**

- ・フィルタの取付部からオイルの漏れがないことを確認してください。

走行装置

警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。

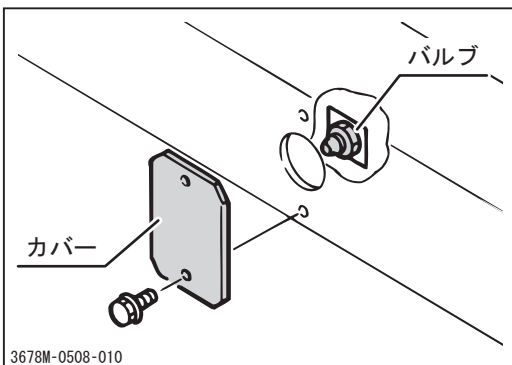
クローラ張り調整・取り付け

警告

- ・ジャッキアップした場合は、シャシフレームに支持台をあて、確実に車体を保持してください。
- ・グリースシリンダ内は高圧になっており、バルブを緩め過ぎたり、急激に緩めたりするとバルブが飛び出すおそれがあります。体をバルブの正面にもっていたり、顔などを近付けたりしないでください。

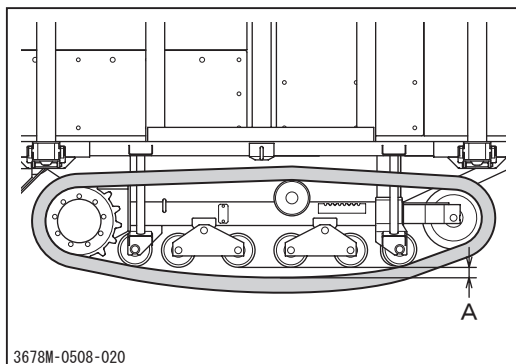
注意

- ・クローラは新品時の初期伸びによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。
- ・走行距離が多くなると sprocket とのなじみによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。
- ・クローラは重量があるので取り扱いには十分注意してください。



調整

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と水平に浮かせます。
3. ボルト（2本）を取り外し、カバーを取り外します。
4. 市販のグリースポンプでバルブよりグリースを圧入します。



5. ローラが水平な状態でクローラとローラの間（図示A）が30mm～40mm程度になるように調整します。

取り付け

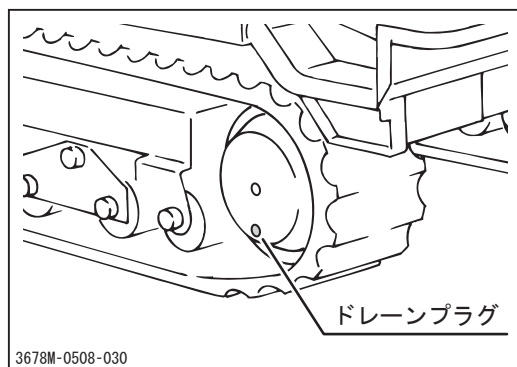
クローラが外れた場合は以下の要領で取り付けてください。

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. ジャッキアップ等して外れた側のクローラを地面から浮かせます。
3. バルブを緩めてシリンダ内圧を減少させます。
4. バルブを取り外します。
5. アイドラフォークを車体後方に押し込みます。
6. クローラはスプロケット側から先にはめ、次にイドラ側をはめます。
7. バルブのOリングがかみ込まないように注意してバルブを確実に締め付けます。
8. クローラの張りを調整します。

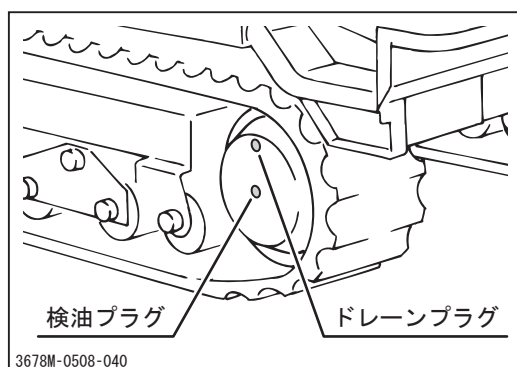
走行モータ潤滑油の交換

警告

- ・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。
- ・廃油は適切な処理をしてください。



1. 走行モータのドレーンプラグが最下位置になるように車両を停車させます。
2. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。



4. ドレーンプラグの位置が検油口より高い位置になるように車両を停車させます。
5. 検油プラグを取り外します。
6. ドレーンプラグより指定のオイルを補給します。検油口よりオイルがでてくるまで補給します。
7. ドレーンプラグおよび検油プラグを取り付けます。

アドバイス

- ・指定オイル：☞36ページ
- ・オイル量：☞36ページ

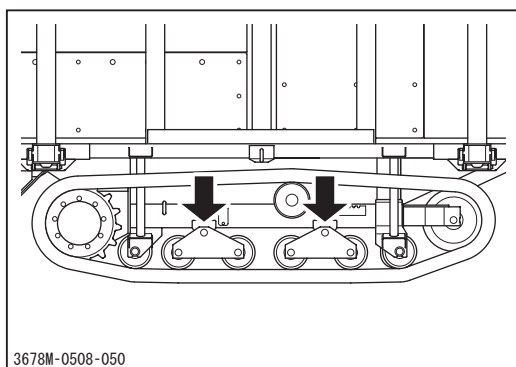
給脂

⚠ 注 意

- ・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

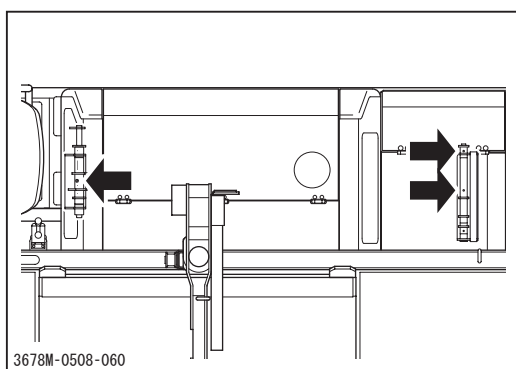
👉 アドバイス

- ・指定グリース：👉39ページ
- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。



ローラ支点軸

1. ローラ支点軸（4ヶ所）に市販のグリースポンプで指定のグリースを給脂します。

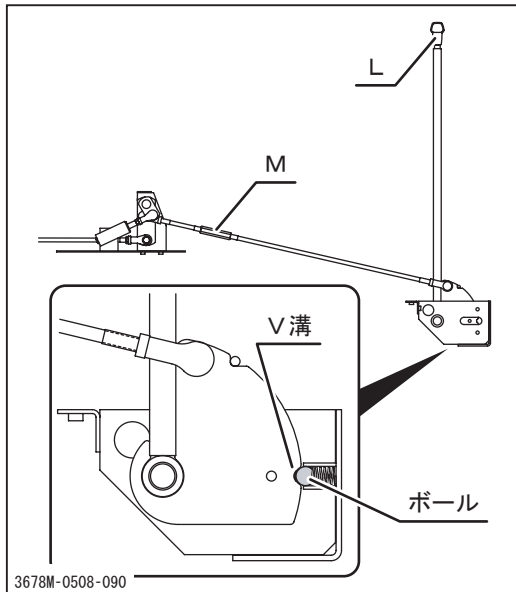


操向レバー中間リンク

1. 操向レバーの中間リンク（3ヶ所）に市販のグリースポンプで指定のグリースを給脂します。

操向レバーの調整

操向レバーのグリップ位置が左右で不揃いの場合



1. ボールが操向レバーのV溝にセットされているか確認します。セットされていない時はターンバックルMで調整します。

👉 アドバイス

- ・ボールがV溝にセットされているがグリップ位置が違う場合は操向レバー等の変形が考えられます。変形箇所を修正して左右のグリップ位置を合わせてください。
- ・ターンバックルMの調整は、ボールをV溝にセットするために行います。左右グリップ位置の調整には使用しないでください。

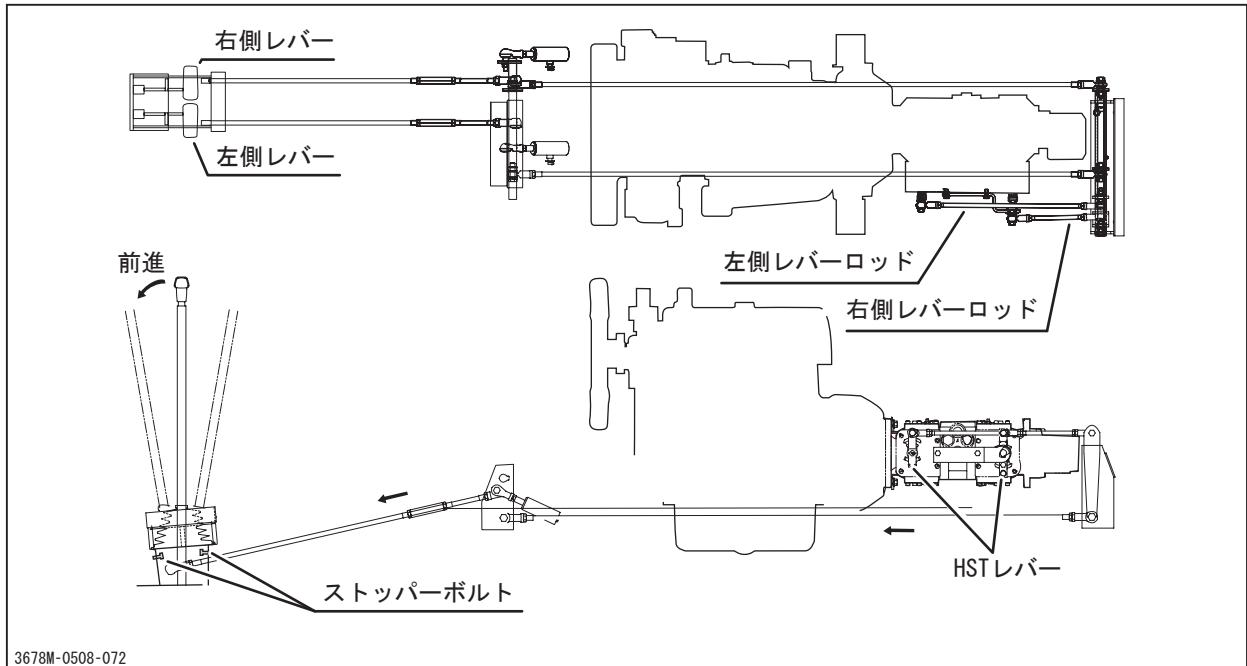
直進操作で車両が曲がる場合

⚠️ 注意

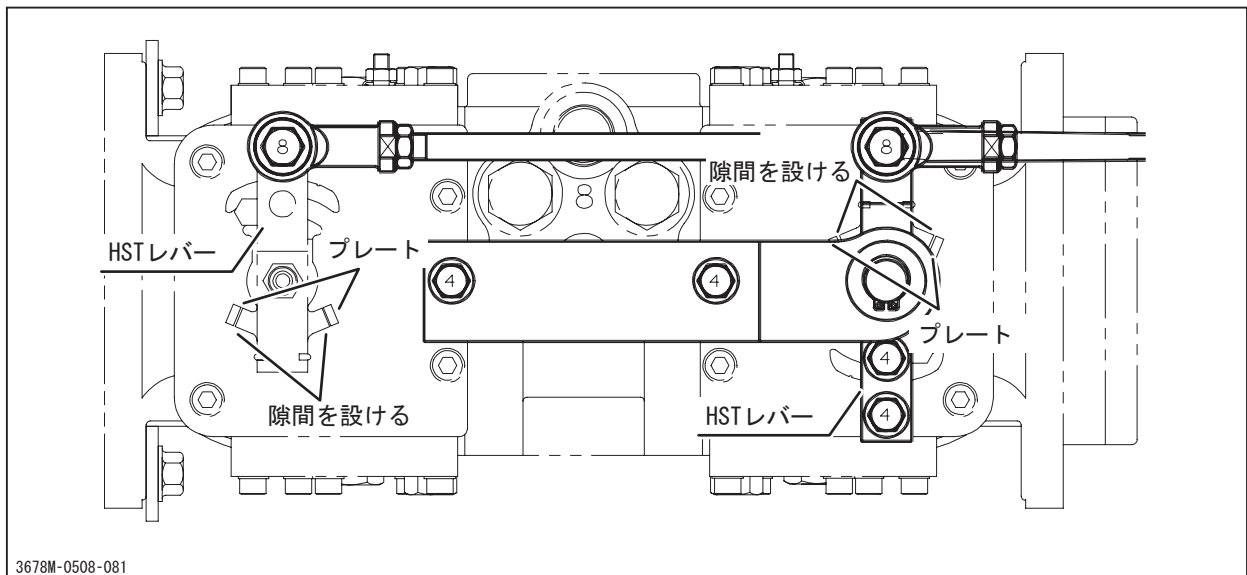
- ・HSTレバーは変形しやすいので、過度の力が加からないよう注意してください。

👉 アドバイス

- ・HSTレバーに取り付けられているロッドエンドを調整するときは、必ずロッドエンドとロックナットの両方にレンチを掛け、HSTレバーに力が加わらないようにしてください。
- ・ロッドエンドをHSTレバーから取り外したり、取り付けるときは、必ずボルトとナットの両方にレンチを掛け、HSTレバーに力が加わらないようにしてください。



1. 車両が右側に曲がる場合は、左側レバーロッドが伸びる方向に調整するか、右側レバーロッドが縮む方向に調整します。
2. 車両が左側に曲がる場合は、左側レバーロッドが縮む方向に調整するか、右側レバーロッドが伸びる方向に調整します。



3. 操向レバーを最大量動かしたときに、HSTレバーがプレートに当たらないように操向レバーのストッパーボルトを調整します。

電装品

 警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止し、メインスイッチを「○ (OFF)」にしてください。

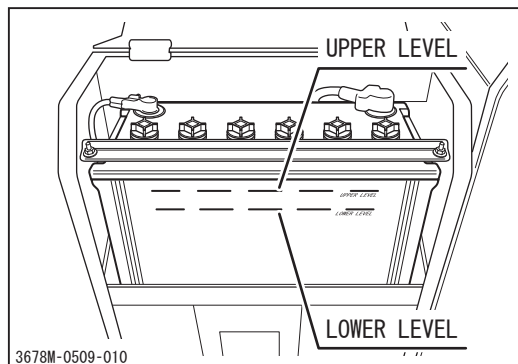
バッテリー液の点検・補給

 警告

- ・バッテリーから発生する水素ガスは引火性があるので、火気を近づけないでください。
- ・バッテリー液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで使用しないでください。バッテリーの寿命を著しく縮めます。また、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- ・バッテリーの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。
- ・バッテリー液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

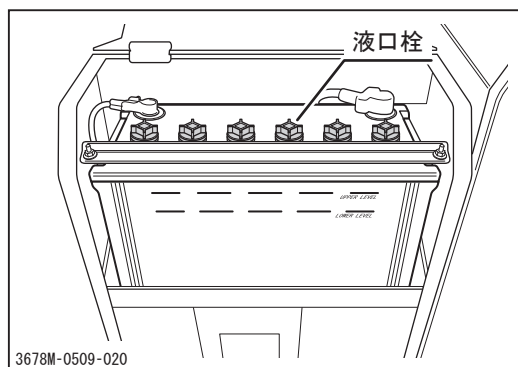
 注意

- ・バッテリー液を補給する時は、バッテリー液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリー液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。



点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリーカバーを開きます。(☞39ページ)
3. バッテリー液量が「UPPER LEVEL」(以下U. L)と「LOWER LEVEL」(以下L. L)の間にあることを確認します。
4. バッテリー液量が「U. L」と「L. L」の間より少ない場合は補給します。



補給

1. 液口栓を取り外します。
2. 蒸留水を「U. L」まで補給してください。
3. 液口栓を取り付けます。

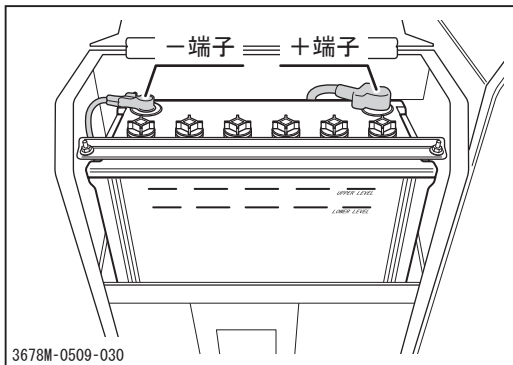
バッテリーの充電

 警告

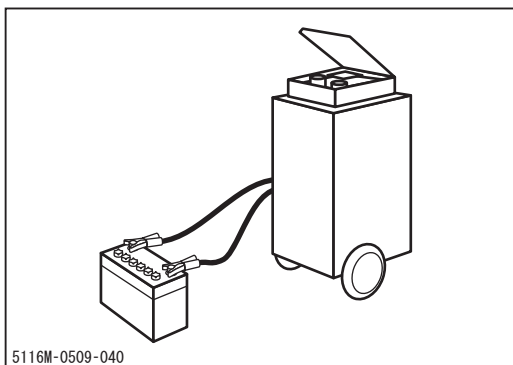
- ・バッテリーは車両から取り外して充電してください。
- ・バッテリーから発生する水素ガスは引火性があるので、火気を近づけないでください。
- ・バッテリー液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで充電しないでください。バッテリーが爆発するおそれがあります。
- ・バッテリーを乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。清掃は湿った布で行ってください。
- ・バッテリー液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

 注意

- ・使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
- ・バッテリー端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。
- ・バッテリー端子をバッテリーに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。



1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリーカバーを開きます。(☞39ページ)
3. バッテリーの(-)端子を取り外します。
4. バッテリーの(+)端子を取り外します。
5. バッテリーを取り外します。

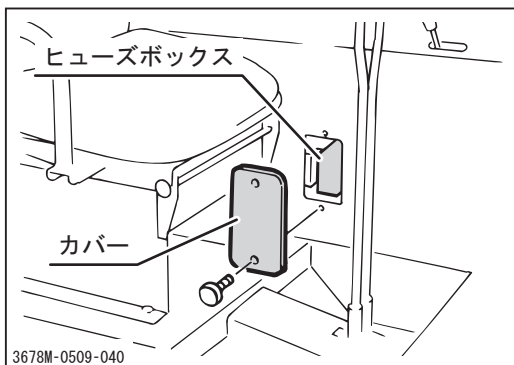


6. バッテリーの(+)と充電器の(+)、バッテリーの(-)と充電器の(-)を接続して充電します。
7. 充電が終了したらバッテリーを車両に取り付けます。

ヒューズの点検・交換

⚠ 注意

- ・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。
- ・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。



点検

1. カバーを取り外します。
2. ヒューズボックスを開き、ヒューズが切れていないかをチェックします。
3. 切れている場合にはヒューズを交換します。

交換

1. 切れているヒューズを引き抜きます。
2. 新しいヒューズを差し込みます。

👉 アドバイス

- ・ヒューズボックスの下側および右側に予備ヒューズ（5A、10A、15A各1個）があります。

ソレノイドブレーキ 副変速バルブ ホーン 駐車ブレーキバルブ	10A	予備 ヒューズ	15A
フューエルポンプ オルタネータ リレーコイル	10A		10A
インジケータ	5A		
ウインチバルブ (ウインチ仕様のみ)	15A		
空き			
空き			
予備ヒューズ	5A		

指定のヒューズ以外は
使用しないでください

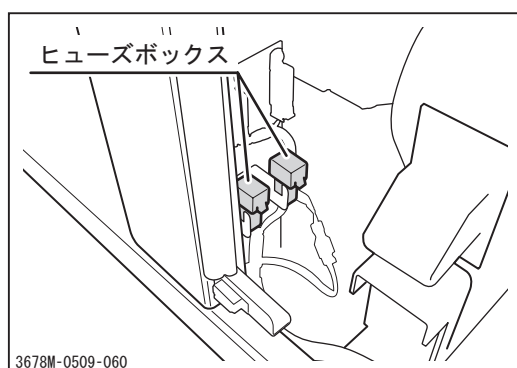
3678 5025 001

3678M-0509-051

スローブローヒューズの点検・交換

⚠ 注意

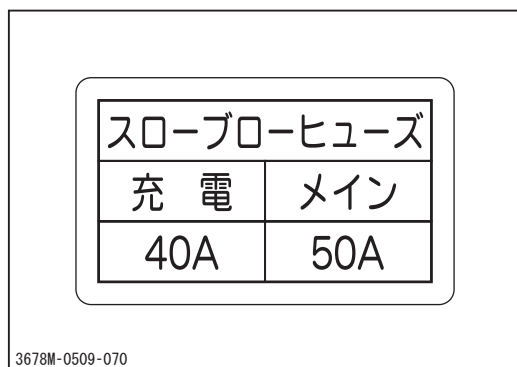
- ・スローブローヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。
- ・スローブローヒューズは指定容量のものと交換してください。配線および電装品が故障するおそれがあります。

**点検**

1. エンジンカバーを開きます。(☞42ページ)
2. ヒューズボックスを開き、ヒューズが切れていないかをチェックします。
3. 切れている場合にはヒューズを交換します。

交換

1. 切れているヒューズを引き抜きます。
2. 新しいヒューズを差し込みます。



ウインチ（ウインチ仕様のみ）

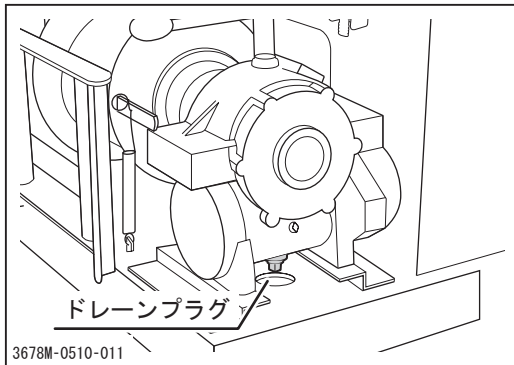
警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

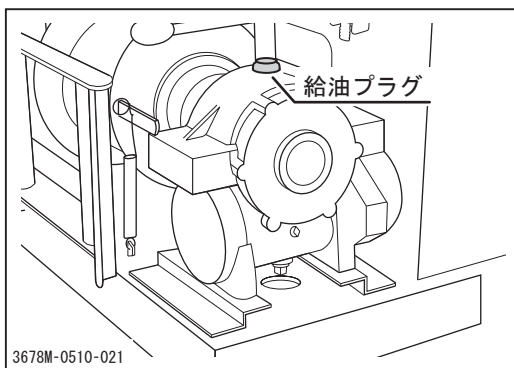
ウインチモータ潤滑油の交換

警告

- ・エンジン停止直後はオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。
- ・廃油は適切な処理をしてください。



1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。



4. 給油プラグを取り外します。
5. 給油口より指定のオイルを補給します。
6. 給油プラグを取り付けます。

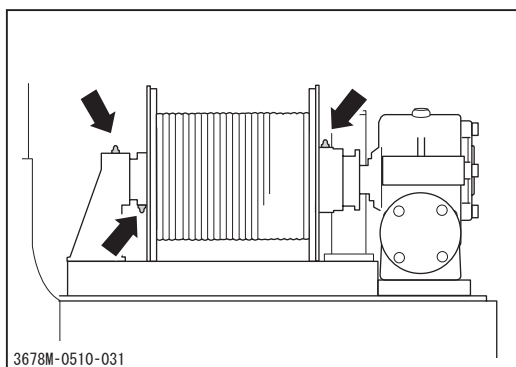
アドバイス

- ・指定オイル：☞36ページ
- ・オイル量：☞36ページ

給脂

⚠ 注意

- ・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。



1. ウインチ軸受部に市販のグリースポンプで指定のグリースを給脂します。

👉 アドバイス

- ・指定グリース：👉35ページ
- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突ってください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

使用後のお手入れ

注 意

- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・使用後は荷台下やエンジンルーム内も清掃してください。荷台下やエンジンルーム内に木のクズなどを堆積したままにすると、エンジン、マフラーなどの熱により発火する危険性があります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

 注意

- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 「停止のしかた」(☞22ページ)の手順に従い、車両を停車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。(☞56、66ページ)
4. エンジンオイルを交換します。(☞41ページ)
5. エンジン冷却水を完全に抜き取ります。(☞44ページ)
6. エアクリーナエレメントを清掃します。(☞46ページ)
7. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。(☞48ページ)
8. 車両からバッテリーを取り外し、バッテリー液の点検・補給を行います。(☞59ページ)
9. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

- ・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。
- ・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エンジン 関 連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	15ページ
		燃料系統への空気の混入	→エア抜きをする	48ページ
		燃料への水の混入	→水抜きをする	48ページ
		バッテリーの容量不足	→バッテリー液を補給する →バッテリーを充電する →バッテリーを交換する	57ページ 60ページ
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	17ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	15ページ
		燃料系統への空気の混入	→エア抜きをする	48ページ
		暖気運転の不足	→十分暖気する	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	15ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→燃料を交換する	
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	41ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	46ページ
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせください		

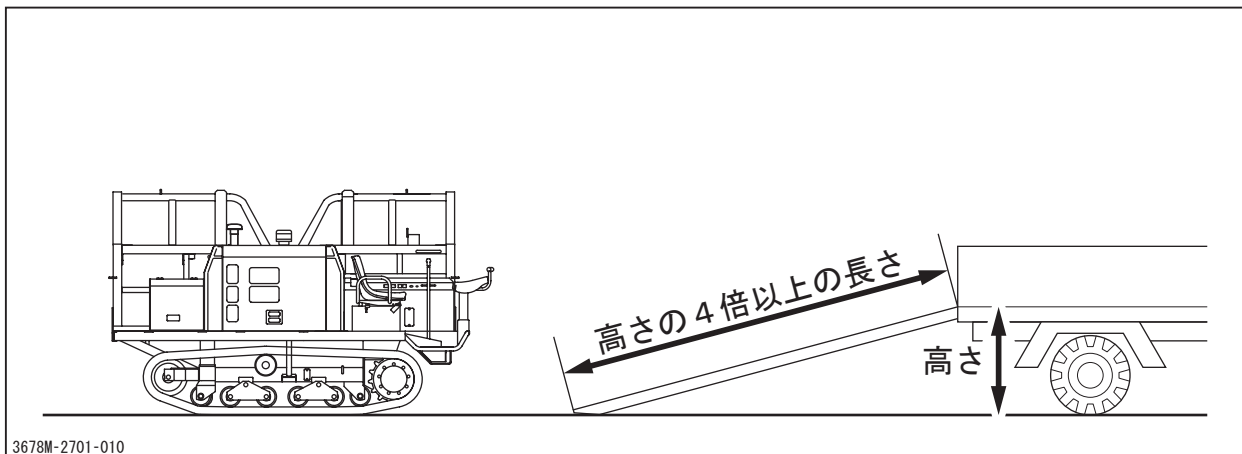
発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	エンジン取付ボルトの緩み	→増し締めする	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	ラジエータの目詰まり	→清掃する	
		エンジンオイルの不足	→補給する	41ページ
		エンジン冷却水の不足	→補給する	44ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	41ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
アクセルレバーが引かかる		→販売店へお問い合わせください		
走 行 装 置 関 連	操向レバーを操作しても車体が動かない	過積載	→積荷を減らす	
		油圧系統の不具合	→「油圧装置関連」の項を参照	70ページ
		その他（上記以外）	→「運転のしかた」の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	17ページ
	旋回不良	過積載	→積荷を減らす	
		油圧系統の不具合	→「油圧装置関連」の項を参照	70ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直進性が悪い	クローラ張り調整不良	→調整する	53ページ
		操向レバーの調整不良	→調整する	57ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	



発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
制 動 装 置 関 連	駐車ブレーキが効かない	油圧系統の不具合	→「油圧装置関連」の項を参照	70ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
油 圧 装 置 関 連	油圧装置（油圧モータ、油圧シリンダ）が作動しないまたは作動不良	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	50ページ
		フィルタエレメントの目詰まり	→交換する	52ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	サイドポールのロックが効かない	シリンダーロッドとリンクの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
		パイロットチェック弁への異物の噛み込み	→販売店へお問い合わせください	
シリンダーの自然降下	パイロットチェック弁への異物の噛み込み	→販売店へお問い合わせください		
車 体 関 連	車体の異常振動またはバランスが悪い	クローラが脱輪している	→取り付けおよび調整する	53ページ
		ローラ、アッパーローラ、アイドラ、スプロケットの取付ボルトの緩み	→点検および増し締めする	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
安 全 装 置 関 連	ウォーニングランプの点灯不良	ヒューズ切れ	→交換する	
		球切れ	→交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジン始動後もオイルランプが消灯しない	エンジンオイルの不足	→補給する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジン始動後も冷却水温ランプが消灯しない	オーバーヒート	→「エンジン関連」の項を参照	
	エンジン始動後もチャージランプが消灯しない	ヒューズ切れ	→交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ホーンが作動しない	ヒューズ切れ	→交換する	
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせください		

トラックへの積み降ろし要領

 警告

- ・トラックは平坦な場所に止め、必ず輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・前進でゆっくりと積み込んでください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



1. トラックを平坦な場所に止め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速スイッチを「（低速）」にし、前進にてゆっくりと積み込みます。
4. 「停止のしかた」（22ページ）の手順に従い、車両を停車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。